

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成22年6月30日

**【事業年度】** 第49期(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

**【会社名】** 株式会社島精機製作所

**【英訳名】** SHIMA SEIKI MFG.,LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 島 正 博

**【本店の所在の場所】** 和歌山県和歌山市坂田85番地

**【電話番号】** (073)471局0511(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経理財務部長 南木 隆

**【最寄りの連絡場所】** 和歌山県和歌山市坂田85番地

**【電話番号】** (073)471局0511(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経理財務部長 南木 隆

**【縦覧に供する場所】** 株式会社島精機製作所 東京支店  
(東京都中央区日本橋二丁目8番6号  
SHIMA日本橋ビル10階)  
株式会社島精機製作所 西日本支店  
(大阪市北区梅田一丁目11番4 - 1500号  
大阪駅前第4ビル15階)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第45期	第46期	第47期	第48期	第49期
決算年月	平成18年 3月	平成19年 3月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月
売上高 (百万円)	37,879	47,079	69,897	48,970	36,874
経常利益 (百万円)	5,634	9,450	19,085	4,814	148
当期純利益又は当期純損失 ( ) (百万円)	3,404	3,113	9,958	1,765	1,885
純資産額 (百万円)	95,330	92,810	101,647	91,063	87,473
総資産額 (百万円)	109,302	129,161	133,745	119,777	110,062
1株当たり純資産額 (円)	2,599.24	2,546.71	2,677.47	2,633.55	2,529.67
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額 ( ) (円)	91.92	86.17	276.13	49.88	54.52
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)		83.51	261.43	48.56	
自己資本比率 (%)	87.2	69.2	73.2	76.0	79.5
自己資本利益率 (%)	3.6	3.4	10.6	1.9	2.1
株価収益率 (倍)	35.7	36.0	16.9	39.0	
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	4,754	10,691	21,747	1,977	6,746
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,512	16,222	3,321	70	2,759
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,386	12,225	10,883	4,294	6,681
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	9,110	15,954	22,643	19,310	16,317
従業員数 (名)	1,316	1,584	1,680	1,708	1,686

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第45期(平成18年3月期)は潜在株式がないため記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を表示しております。

4 純資産額の算定にあたり、平成19年3月期から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号)を適用しております。

5 第49期(平成22年3月期)の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

6 第49期(平成22年3月期)の株価収益率については当期純損失であるため、記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第45期	第46期	第47期	第48期	第49期
決算年月	平成18年 3月	平成19年 3月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月
売上高 (百万円)	36,544	43,754	60,850	39,486	29,572
経常利益 (百万円)	5,225	8,737	13,709	1,414	1,548
当期純利益又は 当期純損失 ( ) (百万円)	3,010	3,607	7,093	240	1,176
資本金 (百万円)	14,859	14,859	14,859	14,859	14,859
発行済株式総数 (千株)	37,600	37,600	37,600	36,600	36,600
純資産額 (百万円)	88,776	83,034	90,027	82,677	80,444
総資産額 (百万円)	103,926	114,688	118,079	101,698	98,091
1株当たり純資産額 (円)	2,420.57	2,367.62	2,463.30	2,391.01	2,326.55
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	37.5 (17.5)	37.5 (17.5)	55.0 (25.0)	40.0 (25.0)	30.0 (20.0)
1株当たり当期純利益 金額又は当期純損失金 額 ( ) (円)	81.28	99.83	196.70	6.79	34.03
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)		96.77	186.19	6.56	
自己資本比率 (%)	85.4	72.4	76.2	81.3	82.0
自己資本利益率 (%)	3.4	4.2	8.2	0.3	1.4
株価収益率 (倍)	40.4	31.1	23.7	286.6	
配当性向 (%)	46.1	37.6	28.0	589.1	
従業員数 (名)	1,051	1,060	1,086	1,125	1,191

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第45期(平成18年3月期)は潜在株式がないため記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を表示しております。

4 純資産額の算定にあたり、平成19年3月期から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号)を適用しております。

5 平成20年3月期の1株当たり配当額55円00銭(1株当たり中間配当25円00銭)には、創立45周年記念配当2円50銭を含んでおります。

6 第49期(平成22年3月期)の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

7 第49期(平成22年3月期)の株価収益率及び配当性向については当期純損失であるため、記載しておりません。

2 【沿革】

年月	概要
昭和36年7月	和歌山市大泉寺丁に資本金100万円をもって三伸精機株式会社(現提出会社)を設立し、手袋編機用半自動装置の製造販売を開始。
昭和37年2月	和歌山市手平に本社及び本社工場を移転、商号を島精機株式会社に変更。
昭和37年3月	商号を株式会社島精機製作所に変更。
昭和40年1月	全自動手袋編機の製造販売を開始。
昭和42年9月	全自動フルファッション衿編機の製造販売を開始し、横編機業界に進出。
昭和43年9月	業務拡張のため和歌山市坂田に本社及び本社工場を新設移転。
昭和45年2月	全自動シームレス手袋編機(SFG)を開発、製造販売を開始。
昭和46年6月	パリ開催のITMA展(国際繊維機械見本市)に全機種を出品、国際的な評価を受ける。
昭和50年9月	全自動シマトロニック・ジャカード手袋編機(SJG)を開発、独ライプチヒ展に出展しゴールドメダルを受賞する。
昭和53年3月	シマトロニック・ジャカード・コンピュータ制御横編機(SNC)を開発、横編機の新分野を開拓する。
昭和54年7月	和歌山市坂田にニットマックエンジニアリング(株)(のちに連結子会社(株)ニットマック)を設立。(平成22年3月当社に吸収合併。)
昭和55年1月	和歌山市神前に(株)シマファインプレス(現連結子会社)を設立。(昭和62年3月当社100%出資子会社となる。)
昭和56年3月	シマトロニックデザインシステム(SDS)の製造販売を開始。
昭和56年10月	ティーエスエム工業(株)(和歌山市井戸、現連結子会社)に50%を出資。(昭和62年10月当社100%出資子会社となる。)
昭和57年1月	ニットデザインセンター(現トータルデザインセンター)を発足。
昭和57年6月	大阪市北区に大阪支店を開設。
昭和60年4月	当社太田営業所の業務をツカダ(株)(群馬県桐生市、現連結子会社(株)ツカダシマセイキ)に移管するとともに45%を出資。(平成20年2月当社100%出資子会社となる。)
昭和60年8月	イギリスミルトンキーンズ市で現地法人を買収し、シマセイキヨーロッパ(SHIMA SEIKI EUROPE LTD. 現連結子会社。平成18年3月ダービー州に移転)とする。
昭和61年1月	台湾台北市に台北支店を開設。
昭和61年4月	アメリカニュージャージー州に現地法人シマセイキU.S.A.(SHIMA SEIKI U.S.A. INC. 現連結子会社)を設立。(平成19年5月当社100%出資子会社となる。)
昭和62年5月	東京都港区に東京支店を開設。(平成12年3月中央区日本橋に移転)
昭和62年10月	開発・生産・販売の一体化をはかるため、(株)島アイデア・センター、神谷電子工業(株)を吸収合併。
平成元年4月	株式の額面金額変更のための合併。
平成元年6月	第2世代のコンピュータ横編機シマトロニック・ジャカード・コンピュータ横編機(SESS)の製造販売を開始。
平成2年12月	大阪証券取引所市場第二部に上場。新本社ビル竣工。
平成4年2月	自動裁断機(PCAM)の製造販売を開始。
平成4年5月	名古屋市中区に名古屋支店を開設。
平成4年9月	大阪証券取引所市場第一部銘柄に指定。
平成6年10月	大阪府泉大津市に泉州支店を開設。
平成7年11月	完全無縫製型コンピュータ横編機(SWG)の製造販売を開始。
平成8年1月	東京証券取引所市場第一部に上場。
平成8年5月	(株)マーキーズを設立(現連結子会社)。
平成9年10月	世界初のスライドニードルを搭載した多機能コンピュータ横編機(SWG FIRST)を開発。
平成10年7月	東北シマセイキ販売(株)を吸収合併し、山形営業所、福島営業所を開設。
平成12年6月	IT機能を充実したALL in ONEコンセプトのデザインシステム(SDS ONE)を発売。
平成13年3月	イタリアミラノにデザインセンターを開設。
平成14年4月	創立40周年記念行事としてファッションショーを開催。
平成16年4月	ホールガーメント®横編機(SWG021)及び世界初の超ファインゲージ手袋編機(NewSFG18ゲージ)を発売。
平成16年11月	フルシンカー機構搭載のコンピュータ横編機(NewSESS-i)を発売。
平成17年4月	株式会社海南精密を連結子会社とする。
平成17年7月	ホールガーメント®横編機発売10周年記念のファッションショーを開催。
平成17年12月	省エネ・省資源に配慮した最新鋭工場FA2号棟を竣工。

年月	概要
平成18年6月	NOVA KNITS INC.(のちに連結子会社SHIMA SEIKI U.S.A. INC.の100%出資子会社)を連結子会社とする。
平成18年7月	コストパフォーマンスを向上したコンピュータ横編機(S S G、S I G)を発表。
平成18年7月	アメリカニューヨーク市にデザインセンターを開設。
平成18年9月	連結子会社島精榮有限公司(香港)が販売代理店から事業を譲受ける。
平成18年12月	SHIMA-ORSI S.P.A.(イタリア)の全持分の譲渡を受け連結子会社とする。
平成19年3月	無縫製コンピュータ横編機及びデザインシステムを活用したニット製品の高度生産方式の開発により第53回大河内記念生産特賞を受賞。
平成19年7月	島精榮(上海)貿易有限公司(現連結子会社 島精機(香港)有限公司)の100%出資子会社)を設立し、連結子会社とする。
平成19年9月	ミュンヘン開催のITMA2007に、生産効率を大幅に向上させたホールガーメント®横編機、立体表現が可能となったデザインシステム(S D S ONE A P E X)を出展。
平成20年4月	東洋紡糸工業株式会社を設立、連結子会社とする。太田営業所を開設。
平成20年7月	上海開催のITMA ASIA + CITME 2008に、革新的なホールガーメント®横編機の新機種(M A C H 2 ®)を出展。
平成20年11月	販売代理店の株式を取得して子会社としSHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.(当社連結子会社)、SHIMA SEIKI PORTUGAL LDA.(現子会社 SHIMA SEIKI PORTUGAL UNIPessoal LDA)に社名を変更する。
平成21年4月	東莞島精榮貿易有限公司(現連結子会社 島精機(香港)有限公司)の100%出資子会社)を連結子会社とするとともに、SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD (タイ)を設立、連結子会社とする。
平成21年7月	連結子会社SHIMA-ORSI S.P.A.をSHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.に社名変更する。
平成21年11月	連結子会社NOVA KNITS INC.を清算する。
平成22年1月	連結子会社島精榮有限公司を島精機(香港)有限公司に社名を変更する。
平成22年1月	超ファインゲージで高品質なホールガーメント®ニットウエアの生産を実現したM A C H 2 X 1 5 3 1 8 L、多色使いで繊細な柄表現を可能にしたM A C H 2 S I Gを発売。
平成22年3月	連結子会社株式会社ニットマックを吸収合併する。

(注) 当社(登記上の設立年月日 昭和51年8月24日)は、株式会社島精機製作所(実質上の存続会社)の株式額面金額を変更するため、平成元年4月1日を合併期日として、同社を吸収合併いたしました。合併前の当社は休業状態であり、以下特に記載のないかぎり、実質上の存続会社に関して記載しております。

3 【事業の内容】

当社の企業グループは、横編機、デザインシステム、手袋靴下編機の製造販売を主な事業内容とし、さらに各事業に関連する部品の製造販売等に加え、その他サービス等の事業活動を展開しております。

なお、製造・販売子会社は原則として事業の種類別セグメントの全てを分担しており、当グループの事業に係わる位置づけは次のとおりであります。

〔横編機事業・デザインシステム関連事業・手袋靴下編機事業・その他事業〕

(製造)

横編機、デザインシステム、手袋靴下編機の製品及び部品は当社で製造しております。

また、製品の一部部品につきましては、連結子会社 株式会社シマファインプレス、ティーエスエム工業株式会社及び株式会社海南精密に製造を委託し、組立用部品として購入しております。

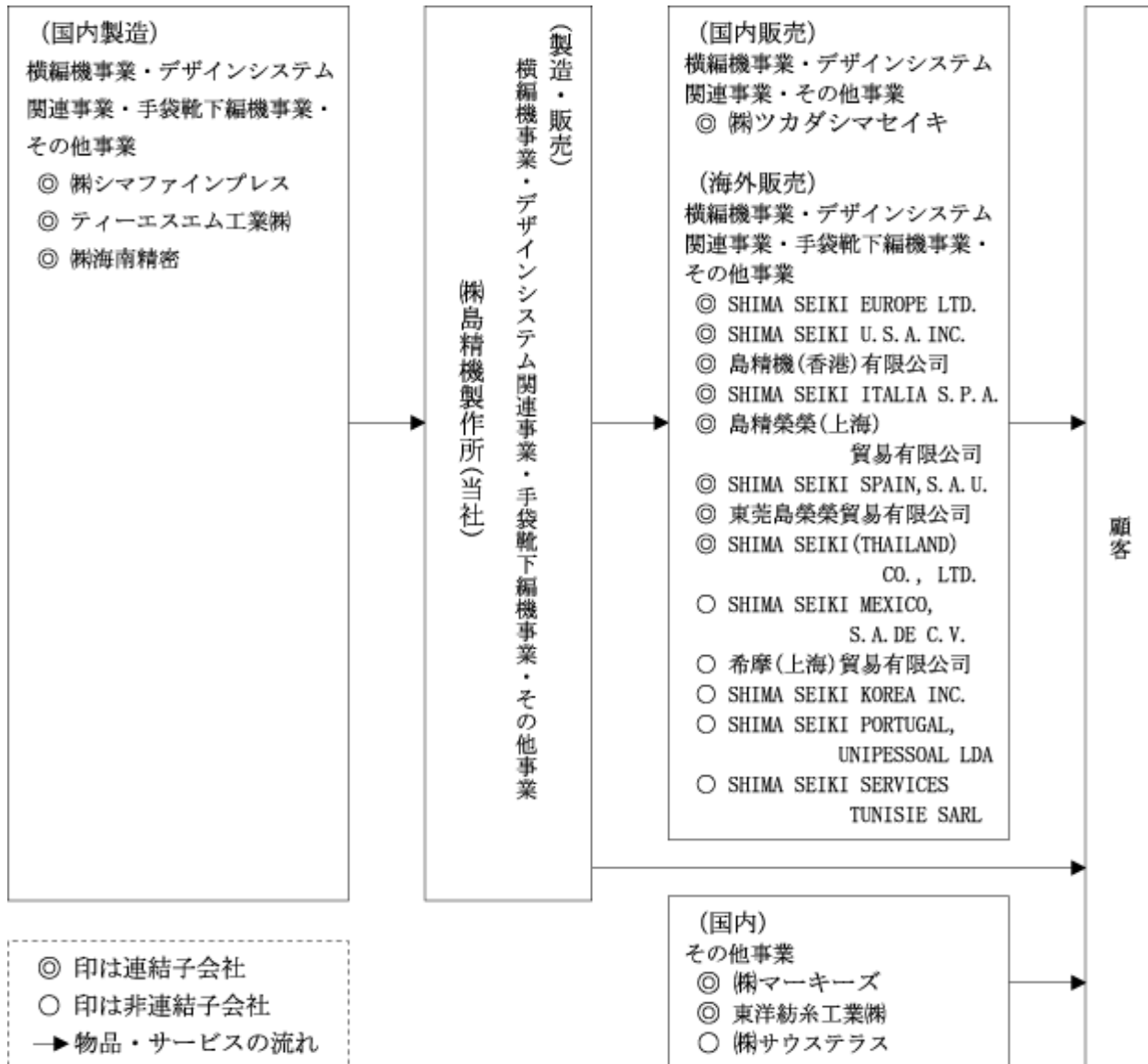
(販売)

国内販売及び海外販売は当社が需要者へ直接又は商社、代理店経由で販売しておりますが、国内販売の一部につきましては、連結子会社 株式会社ツカダシマセイキが、また海外販売の一部につきましては、連結子会社 SHIMA SEIKI U.S.A. INC.、SHIMA SEIKI EUROPE LTD.、島精機(香港)有限公司、SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.、島精榮業(上海)貿易有限公司、SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.、東莞島精榮業貿易有限公司、SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD. 及び非連結子会社 SHIMA SEIKI MEXICO, S.A. DE C.V.、希摩(上海)貿易有限公司、SHIMA SEIKI KOREA INC.、SHIMA SEIKI PORTUGAL UNIPessoal LDA 及び SHIMA SEIKI SERVICES TUNISIE SARL が販売を担当しております。

(その他)

株式会社マーキーズ(連結子会社 ホテル業)、東洋紡糸工業株式会社(繊維原料の製造、販売、輸出入)、株式会社サウステラス(ホテル業)があります。

事業の系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
(連結子会社) ㈱シマファインプレス (注) 3	和歌山市	60	横編機事業 デザインシステム関連事業 手袋靴下編機事業 その他事業	100	当社製品の部品を製造しております。 役員の兼任 6名
ティーエスエム工業㈱	和歌山市	48	同上	100	当社製品の部品を製造しております。 役員の兼任 6名
㈱海南精密	和歌山県海南市	10	同上	100	当社製品の部品を製造しております。 役員の兼任 6名
㈱ツカダシマセイキ	群馬県太田市	12	同上	100	当社製品を販売しております。 役員の兼任 2名
㈱マーキーズ	和歌山市	250	その他事業	100	当社資産を賃借しております。 役員の兼任 4名
東洋紡糸工業㈱	大阪府泉北郡 忠岡町	100	同上	100	材料を購入しております。 役員の兼任 3名
SHIMA SEIKI U.S.A. INC. (注) 3	米国 ニュージャージー州	千米ドル 15,600	横編機事業 デザインシステム関連事業 手袋靴下編機事業 その他事業	100	当社製品を販売しております。 役員の兼任 2名
SHIMA SEIKI EUROPE LTD.	英国 ダービー州	千英ポンド 1,000	同上	100	当社製品を販売しております。 役員の兼任 1名
島精機(香港)有限公司 (注) 3、5	中国 香港	千香港ドル 3,500	同上	100	当社製品を販売しております。 役員の兼任 3名
SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A. (注) 3、5	イタリア ミラノ	千ユーロ 2,000	同上	100	当社製品を販売しております。 役員の兼任 2名
島精榮(上海)貿易有限公司	中国 上海	千米ドル 2,100	同上	100 (100)	当社製品の部品を販売しております。 役員の兼任 3名
SHIMA SEIKI SPAIN,S.A.U.	スペイン バルセロナ	千ユーロ 108	同上	100	当社製品を販売しております。
東莞島精貿易有限公司	中国 東莞	千米ドル 1,000	同上	100 (100)	当社製品を販売しております。 役員の兼任 3名
SHIMA SEIKI (THAILAND) Co., LTD. (注) 4	タイ バンコク	千バーツ 4,000	同上	49 (49)	当社製品を販売しております。 役員の兼任 1名

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、事業の種類別セグメントの名称を記載しております。  
 2 議決権の所有割合の( )内は内書きで、間接所有割合であります。  
 3 特定子会社であります。  
 4 SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD. については持分は100分の50以下ですが、実質的に支配しているため、子会社としております。  
 5 島精機(香港)有限公司、SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。主要な損益情報等は次のとおりであります。

	島精機(香港) 有限公司	SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.
売上高	17,169 百万円	6,401 百万円
経常利益又は経常損失( )	646 百万円	397 百万円
当期純利益又は当期純損失( )	378 百万円	492 百万円
純資産額	10,240 百万円	3 百万円
総資産額	29,316 百万円	12,376 百万円

## 5 【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

平成22年3月31日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数(名)
横編機事業	991
デザインシステム関連事業	62
手袋靴下編機事業	36
その他事業	183
全社(共通)	414
合計	1,686

(注) 従業員は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であります。

## (2) 提出会社の状況

平成22年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,191	40.25	17.96	5,476,297

(注) 1 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であります。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

## (3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は、日本労働組合総連合会 J A M大阪和歌山地区協議会に属し、組合員数は794名であります。なお、労使関係について特に記載すべき事項はありません。



## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度における世界経済は、一昨年秋に発生した金融危機を契機とする世界同時不況がようやく底打ちし、各国政府による景気対策の効果や中国をはじめとする新興国の高成長に牽引されて、地域差はあるものの期末にかけて回復の動きを強めました。わが国においてもアジア向けの輸出の増加に加えて設備投資が上向きに転じるなど、景気は緩やかな回復が見られるようになりました。

当社グループを取り巻く経営環境は、第4四半期においては中国市場における設備投資が回復傾向となりましたが、全般的には先進国における衣料品消費の低迷や円高の進行、競合メーカーとの価格競争の激化など厳しい状況で推移しました。このような状況の中、当社グループは世界中のユーザーの様々なニーズに迅速に対応し、生産効率を高め高品質なモノづくりに貢献する製品・ソフトウェアの開発、販売に注力してまいりました。

当連結会計年度の業績は、主力の中国市場やイタリア、トルコなどで年明け以降に受注が回復傾向となったものの、期を通じては全般に設備投資が伸び悩み、全体の売上高は368億74百万円（前年同期比24.7%減）となりました。

利益面におきましても、売上高の減少に加えて、主力製品の製品単価の下落や生産台数の減少により売上総利益率が低下し、営業利益は6億51百万円（前年同期比92.4%減）となりました。また円高の進行により為替差損が発生し、経常利益は1億48百万円（前年同期比96.9%減）、さらにのれん償却額などの特別損失を計上したことにより、当期純損失18億85百万円（前年同期は当期純利益17億65百万円）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (横編機事業)

当社グループのコア・ビジネスである横編機事業では、国内市場、海外市場ともに厳しい事業環境の中、ユーザー業界における設備投資が伸び悩み、売上が減少しました。

主力の中国、香港市場では、近年、人件費高騰と繊維産業における労働力不足などを背景として手動式横編機からコンピュータ横編機への転換が急速に拡大しておりましたが、おもに米国消費市場の低迷を受けてニット製品の輸出が減少し、設備投資が停滞しました。第4四半期には需要が高まり受注は回復傾向となりましたが、前半の落ち込みをカバーするには至りませんでした。また欧州のイタリアではファッション性の高い上質なホールガメント®（無縫製ニット）の高速編成を可能にした最上位機種「MACH2X」の企画提案に注力しましたが、ユーザーの投資抑制の動向を払拭できず設備の更新は伸び悩みました。中東のトルコでは前期に比べて売上を回復しましたが、その他の主要ニット生産国においては、世界的な消費低迷の影響を受けてニット生産量が落ち込み、総じて設備投資は冷え込みました。

国内市場においても衣料品消費の落ち込みでニット製品生産が伸びず、設備投資は拡がりませんでした。

これらの結果、横編機事業の売上高は315億85百万円（前年同期比24.0%減）、営業利益は60億1百万円（前年同期比56.8%減）となりました。

(デザインシステム関連事業)

デザインシステム関連事業では、高品質でファッション性の高いモノづくりをトータルにサポートするアパレルデザインワークステーション「SDS - ONE」や、プロジェクターと高性能カメラを搭載した最新鋭の自動裁断機「P - CAM」シリーズの販売に注力しましたが、設備投資の動きが鈍く売上高は12億55百万円（前年同期比19.1%減）、営業損失は93百万円（前年同期は1百万円の営業利益）となりました。

(手袋靴下編機事業)

手袋靴下編機事業では全般的に低調な推移となり、売上高は2億49百万円（前年同期比78.0%減）、営業損失は21百万円（前年同期は1億98百万円の営業利益）となりました。

(その他事業)

部品販売事業など、その他事業の売上高は37億83百万円（前年同期比19.8%減）、営業損失は7億67百万円（前年同期は3億18百万円の営業損失）となりました。

所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。

(日本)

世界的な衣料品消費の低迷を受けて国内市場、海外市場ともにユーザー業界における設備投資が伸び悩み、売上高は303億87百万円（前年同期比24.9%減）、営業利益は59億52百万円（前年同期比45.3%減）となりました。

(東南アジア)

おもに米国市場向けのニット製品輸出が減少し、中国、香港市場におけるコンピュータ横編機の設備投資が停滞したことで、同市場に販売網を持つ連結子会社島精機（香港）有限公司（平成22年1月1日社名変更）の業績が低迷し、売上高は171億69百万円（前年同期比36.6%減）、営業利益は9億35百万円（前年同期比59.7%減）となりました。

(欧州)

イタリアを中心とする欧州市場においても全般に設備投資は低調となり、売上高は70億99百万円（前年同期比22.9%減）、営業損失は5億25百万円（前年同期は営業利益82百万円）となりました。

(北米)

米国市場における消費低迷による影響を受け、売上高は5億56百万円（前年同期比56.6%減）、営業損失は4億84百万円（前年同期は営業損失7億8百万円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて29億92百万円減少し、163億17百万円となりました。

各活動別のキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

法人税等の還付を受けたことや売上債権の減少などの資金増加により、当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは67億46百万円の資金の増加（前年同期比47億68百万円の収入の増加）となりました。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

有形固定資産の取得などにより、当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは27億59百万円の資金の減少（前年同期は70百万円の資金の増加）となりました。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

短期借入金の返済や配当金の支払などの資金支出により、当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは66億81百万円の資金の減少（前年同期比23億87百万円の支出の増加）となりました。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度における横編機事業、デザインシステム関連事業及び手袋靴下編機事業の生産実績を示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
横編機事業	28,452	88.7
デザインシステム関連事業	1,015	82.9
手袋靴下編機事業	190	18.4
合計	29,658	86.3

(注) 1 金額は、販売価格によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

当連結会計年度における横編機事業、デザインシステム関連事業及び手袋靴下編機事業の受注状況を示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高		受注残高	
	金額(百万円)	前年同期比(%)	金額(百万円)	前年同期比(%)
横編機事業	31,176	113.5	7,197	94.6
デザインシステム関連事業	1,386	95.1	241	219.8
手袋靴下編機事業	378	39.2	142	1,083.6
合計	32,942	110.2	7,581	98.1

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
横編機事業	31,585	76.0
デザインシステム関連事業	1,255	80.9
手袋靴下編機事業	249	22.0
その他事業	3,783	80.2
合計	36,874	75.3

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3 【対処すべき課題】

当社グループは、横編機事業をコアにした積極的な販売戦略のもと、海外売上比率は90%を超える水準に達しております。世界のアパレル生産は大量生産地域である中国市場から新興国への分散が続く一方で、欧米や日本などの消費地では、多品種少量に対応した付加価値の高いモノづくりへの転換が急務となっております。このような経営環境のなか、フレキシブルな販売力と、高度な技術力を融合させることで、中長期的にわたる業績の拡大を目指し、以下の経営戦略を重点課題として取り組んでまいります。

#### 1 アジア市場でのシェア拡大

中国、香港を中心とする東南アジア市場は一時的には人件費の高騰がコンピュータ横編機の需要増につながり、市場ニーズを見据えた新機種への投入とも相まって、好調な受注状況が継続しましたが、2008年のリーマンショック以降、世界的な金融不安に引続く北米消費市場の減退とも相まって大幅な売上減速となりました。中国市場は将来的にも成長拡大が見込める世界最大のニット生産拠点として、当社に加え欧州メーカーや地元編機メーカーと熾烈なシェア獲得競争を続けており、製品力、販売戦略、技術サポートいずれにおいても他社との差別化を鮮明にし、圧倒的なシェアを獲得することが生き残りの条件となってきます。また同市場では売上拡大とともに与信管理および売上債権管理が今後の安定的な成長の重要な課題となるため、子会社を通じた管理体制の強化を進めてまいります。

バングラデシュを始めとした南アジア地域ではニット生産は現状では主要産業でありながら機械化が遅れており、チャイナプラスワンとして魅力のある市場として、今後積極的な販売体制を確立してまいります。

#### 2 ホールガーメント®横編機の浸透・拡販

当社が提唱しているホールガーメント®横編機の強みは、着心地の良さに代表される消費者メリットに加え、作り足しによるクイックレスポンスが可能なことから生産ロスや機会ロスが少なく消費国での生産に最適であるという点が挙げられます。当社はハードウェアを提供するだけでなく、オリジナリティーあふれるトータルな企画提案を行うことで、高付加価値性やファッション性、消費地型生産での優位性などが確実に浸透してきており、地球環境にやさしい点も高く評価されております。

イタリア、米国でのデザイン拠点との連携、中国における技術支援、さらにはホールガーメント®横編機の新機種「MACH2」および新機能を搭載したデザインシステム「SDS-ONE」との連動性を高めることにより、世界市場におけるホールガーメント®の浸透・拡販を展開し、中国依存度の高い売上構成を改善してまいります。

#### 3 トータルファッションシステムによるアパレル関連業界の活性化

当社は、長年培ってきたコンピュータグラフィックス技術を基盤に、分業化された繊維業界を繋ぐビジュアルコミュニケーションツールとして、デザインシステムをアパレル、ニットメーカーなど幅広く業界に提案してまいりました。

今後もさらに、デザインシステム「SDS-ONE」の機能性・操作性の向上を図り、国内外のアパレル関連業界における、マーケットイン・多品種少量生産・クイックレスポンス等を実現する手段として、またバーチャルサンプル作成などの高機能かつ経済性に優れたデザインツールとして、積極的な展開を通じて、販売増強に努めます。

#### 4 競争力の向上を目指した強固な財務体質の構築

当社は、世界市場からさらに信頼される企業を目指し、収益力向上を一段と加速してまいります。製品レベルでは、全社横断的なコストダウンプロジェクトによる開発設計段階から製造原価の見直しを行い、資材および製造コストの低減を進めるとともに、製品の高付加価値化による利益率の向上に努めてまいります。さらにグループ全体にわたる生産効率の改善、経費削減による間接業務の効率化を推進し、コスト競争力を高めることで、収益力の強化を継続して行います。

財務面では、リスク軽減、営業キャッシュ・フロー改善を目的に売上債権管理を強化することで、売上債権回転期間の短縮を目指すとともに、債権回収を促進し、遅延債権発生抑制に努めてまいります。棚卸資産についても、営業戦略およびフレキシブルな生産体制との連携を深めることで低減・効率化を進めます。

#### 5 リスク管理体制の強化

当社グループにおける事業等のリスクの中でも、発生確度が高く業績に影響を与える可能性があるリスクについては、その影響を軽減するため常時管理体制を敷いております。

為替リスクについては、円建取引を増加させることに加え為替予約などによるリスクヘッジを積極的に進め、急激な為替変動の影響を軽減するように努めております。

与信リスクについては、海外主要地域における直販体制の構築による与信リスクを意識した総合的な販売戦略の展開を進めるとともに、国・地域の業界動向や海外代理店の業績管理、信用状態の掌握に努め、与信管理の状況は月次取締役会で報告されております。さらに、与信先に対するファイナンス手法や回収スキーム、販売と信枠などの取引条件を見直すことで、与信集中によるリスクを分散・抑制し、バランスの取れた与信リスク管理を実施してまいります。

#### 4 【事業等のリスク】

当社グループは、事業展開においてリスク要因となり、経営成績、財政状態に影響を及ぼす可能性があると考えられる主な項目を以下の通り認識しております。

なお、以下に記載している将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成22年6月30日）現在において当社グループが判断したものであります。

##### 1 特定の海外市場への依存

当社グループの海外売上比率は90%以上であり、なかでも中国、香港市場への売上高は海外売上高の大半を占めています。当市場における欧州メーカーや地元編機メーカーとの競合、金融政策、税制の変更、他地域との貿易摩擦などの経済及び政治状況等の変化が受注減につながる懸念があり、当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

##### 2 為替レートの変動

当社グループは全世界に製品を販売しており、取引においては円貨以外に外国通貨建で行われております。このため先物予約取引等によりリスクヘッジを行っておりますが、円高による価格競争力の低下により計画した販売活動を確実に実行できない場合があるため、急激な為替レートの変動は当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

### 3 与信及び販売債権の回収リスク

世界販売戦略のなかで主要マーケットである中国、香港及び欧州市場においては当社グループが直接、ユーザーに対する適正な与信管理を行い、債権の回収リスクと販売のバランスを図りながら総合的な海外営業戦略を実施しております。一方で、連結経営における的確な与信対応の重要性が一層高まり、ユーザーの業績や信用状態の変動及びカントリーリスクの顕在化が、当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

### 4 知的財産保護戦略の課題

当社グループが持つ独自の技術とノウハウの一部は、特定の国、地域においては法令遵守意識の欠如等により知的財産権による完全な保護が不可能または限定的にしか保護されない状況にあります。そのため第三者が当社グループの知的財産権を違法に使用して模倣製品を製造する行為を、効果的に防止できない可能性があり、それに伴う売上シェアの低下や価格競争を引き起こすことで当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

### 5 生産拠点の一極集中

当社は製品を本社のある和歌山県で集中的に生産し、開発から製造までの一貫体制を敷くことで効率化を図っております。このため、和歌山県近郊で大規模な地震災害等が発生した場合、製造ラインの操業が長期間停止される可能性があり、当社グループの業績および財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

### 6 事業展開地域での社会的な制度変更等の影響

当社グループは日本国内はもとより、全世界にわたり事業を展開しております。これらの地域においては、以下のようなリスクが内在しており、これらの事象の発生は当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

経済状況の悪化による需要の低迷

予期しない法律または規制の変更

テロ、戦争、政変、治安の悪化その他の要因による社会的混乱

地震等の天変地異

### 7 衣料消費の動向や天候不順等による影響

当社グループの製品の主要な販売先は国内外のアパレルやニットメーカーであり、百貨店や量販店などの店頭での売上は、衣料に対する個人の消費マインドやトレンドに左右される傾向があります。また猛暑、暖冬、風水害などの天候不順が衣料における市場動向を決定する大きな要因のひとつであり、当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

当社は、平成21年12月18日開催の取締役会において承認された合併契約書に基づき、平成22年3月1日付で、当社の連結子会社である株式会社ニットマックを吸収合併いたしました。

詳細は、「第5 経理の状況（1）連結財務諸表 注記事項（企業結合等関係）」に記載の通りであります。

## 6 【研究開発活動】

当社の企業グループにおきまして、研究開発活動を行っているのは当社のみであり、当連結会計年度における研究開発費の総額は、23億25百万円であります。

事業の種類別セグメントに関連付けた研究開発費については、当社の研究開発活動が開発課題に対応したプロジェクトを必要に応じてフレキシブルに編成して取組んでおり、各セグメント別に関連付けることが困難であるため記載しておりません。

当社の研究開発活動は、創業以来、「EVER ONWARD（限りなき前進）」の経営理念のもと、「創造性にもとづく独自の技術開発」を基本に、ハードウェア、ソフトウェアを自社開発し、常に顧客の立場に立った製品及びノウハウを生み出すための研究開発に努めております。

当連結会計年度における主な研究開発活動の概要は次のとおりであります。

### (1) 横編機事業

当社グループのコア・ビジネスである横編機分野におきましては、メイン市場である中国、香港市場が世界のニット生産拠点としての地位を揺るぎないものとしており、同時に沿海部の富裕層の伸張により消費市場としても注目されつつあります。中国市場では人件費の高騰や繊維産業における良質な労働力不足などを要因に手動式横編機からコンピュータ横編機への置換え需要が進行してきましたが、その動きには依然として根強いものがあります。このような中国への一極集中に対し、消費地である欧州や日本市場では国内生産をベースに付加価値の高いモノづくりに加え、多品種・少量、クイックレスポンスが強く求められており、ホールガーメント®横編機を中心とした魅力ある企画提案が一層重要となっております。このような市場の情勢を踏まえ、当社は各開発部門において新機種の開発および既存機種の機能充実、バリエーションの拡大に傾注しました。消費地生産を活性化させるホールガーメント®横編機においては、MACH2X153 18Lを新たに開発、世界で当社のみが開発した4枚のニードルベッドを搭載し、60インチ幅で編成速度は最高1.6m/sを維持しながら自動糸送り装置

(i-DSS)や空コースなしで編成できるなど様々な機能を複合的に採り入れることで、最もファインゲージ化された製品の編み立てが可能で、より高い生産性を実現しました。このホールガーメント®横編機MACH2X153 18Lは編成面においても高品位なホールガーメント製品を編むことができる最上位機として中国、香港市場も視野に入れた世界的な拡販を目指しています。またMACH2シリーズではMACH2SIGを新機種として市場に投入、キャリアの色数を40色、オプションのエアスプライサーを取り付ければ最大54色まで対応可能なインターシャ編機を開発しました。これにより従来編成できなかった高精細でより繊細な色使い、柄の表現が可能となり、生産性の面でも当社従来機と比較し3～4倍の効率アップを達成することができました。中国市場を中心とした普及機分野では、過去実績を積んできたSSG、SIGシリーズにコストダウンを主眼に置き機能を向上させた新機種のNSSG、NSIGを2月にリリースしました。使用部品の共通化などを行い利益率の確保を果たせるものと期待しています。

また編成面の開発を進めるトータルデザインセンターにおいては、新機種、新機能を駆使した独創的で魅力あふれるオリジナルサンプルの開発を格段に進化させ、ホールガーメント®機の最新機種であるMACH2Xシリーズのサンプル作成を強化するとともに、インターシャ機のMACH2SIGにおいてもその機能を余すところなく発揮し編機の普及浸透に資するサンプルの開発と、同時にトレンドや生産性、編成テクニックなどそれぞれのテーマに応じた多様な提案を行い高評を博しました。また百貨店でのオーダーニットイベントを開催しホールガーメント®を直接消費者にオーダー販売するノウハウを醸成し店頭での商品販売に有効なソフトウェア、ノウハウの開発にも傾注しました。

## (2) デザインシステム関連事業

デザインシステム関連事業におきましては、ニット・アパレル業界におけるコミュニケーションツールである「SDS-ONE」の持つ「All in One」コンセプトのもと、パターン作成、ニットのデザイン・プログラミングからテキスタイル、刺繍、プリントデザイン、バーチャルサンプルの作成など、企画デザインから販売促進までのモノづくりの過程において、必要なワークフローを効率的に提供するトータルソリューションシステムとして、様々な機能を追加・進化させました。

横編機の新機種MACH2SIGに対応したキャリアの自動割付機能を開発、インターシャ上級者レベルの持つノウハウをソフト化し、より短時間で初心者でも簡単にプログラミングできるようになりました。「SDS-ONE APEX」の3次元シミュレーションは大幅にその機能を向上させることで画面上においてホールガーメント®の立体表現が可能となり、ループシミュレーションを駆使したバーチャルサンプルの完成度をさらに高めました。またAPEXでは、ホールガーメント®の柄組みを劇的に簡単にし、素早く上質なホールガーメント®を作成できるソフト「Ordermade」では、膨大な実績値のデータベースをもとに、素材・色・アイテムなどを指定して寸法を入力するだけで編成データが自動的に作成されます。新しいビジネスモデルとして店頭でのホールガーメント®のオーダービジネスが実現できるだけでなく、ネットワーク上のパソコンとデータを展開することで迅速な生産性を実現することができます。またテキスタイルや丸編生地用のデザイン、シミュレーションソフトを開発、現物さながらの配色を画面上で検討でき提案資料として活用できるため、横編機を始めとした様々なシミュレーション機能にこれら新機能が加わることで、トータルデザインセンターにおいてはこうした一連のシミュレーションを「感動バーチャル」と呼び、「All in One」のコンセプトを一層前進させることが可能となる画期的なシステムとして高い評価を得ています。アパレルCAMシステム、P-CAM161ではプロジェクターと高性能カメラを搭載することでパターン裁断の精度、作業性を大幅に向上させ、業界からは高い評価を獲得しました。

## (3) 手袋靴下編機事業

手袋編機については、世界で初めて開発に成功したシームレス手袋編機の技術力を背景に、中国製の模倣機に対抗するため18ゲージ対応の超ファインゲージ化による用途開発を進めました。また、さらなる小型化を進めるとともに生産性の向上など高機能化に取組み、当社が持つ耐久性、速度、製品の品質など競合に対する優位性を強くアピールしました。



## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成22年6月30日）現在において当社グループが判断したものであります。

### 1 当連結会計年度の経営成績の分析

#### (1) 売上高の状況

当連結会計年度の売上高は前年同期に比べ24.7%減少し、368億74百万円となりました。

売上高の状況につきましては「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」に記載しましたとおり、第4四半期には需要が高まり受注は回復傾向となりましたが、期を通しては世界的な消費低迷の影響を受けて中国、香港市場をはじめ世界のニット生産国で生産量が落ち込み、総じてコンピュータ横編機の設備投資は停滞しました。デザインシステム関連事業及び手袋靴下編機事業においても全般に低調な推移となり減収となりました。

全事業の海外売上高は337億74百万円（前年同期比24.2%減）、海外売上高比率は91.6%（前年同期比0.6ポイント増）となりました。海外売上高全体に占める地域別割合は東南アジア70.0%（前年同期70.9%）、欧州21.2%（同20.4%）、その他の地域8.8%（同8.7%）となり、各地域別割合に大きな変動は見られませんでした。

国内市場においても衣料品消費が落ち込む中で設備の更新は進まず、売上高は30億99百万円（前年同期比29.7%減）となりました。

#### (2) 利益の状況

利益面におきましても、売上高の減少に加えて主力製品の製品単価の下落や生産台数の減少により、売上総利益は前年同期比42.6%減の141億39百万円となり、売上総利益率は38.3%と前年同期より12.0ポイント低下しました。また、販売費及び一般管理費は人件費の抑制や販売直接費の減少で134億87百万円と前年同期に比べ16.3%減少しましたが、売上高の減少により売上高販管費比率は36.6%と前年同期より3.7ポイント悪化しました。これらの結果、営業利益は前年同期比92.4%減少し6億51百万円となり、売上高営業利益率は1.8%と前年同期より15.6ポイント低下しました。

また経常利益は円高の進行により為替差損が12億42百万円発生したことが影響し、前年同期比96.9%減の1億48百万円となり、売上高経常利益率は0.4%と前年同期より9.4ポイント低下しました。

当期純損益においてはのれん償却額15億17百万円、関係会社出資金評価損1億19百万円などの特別損失を計上したことにより、18億85百万円の純損失（前期は純利益17億65百万円）となりました。

### 2 財政状態の分析

当連結会計年度末における総資産は前期末に比べて97億15百万円減少し、1,100億62百万円となりました。主な減少の理由は売上債権やのれんの減少によるものです。負債は前期末に比べて61億24百万円減少し、225億89百万円となりました。主な減少の理由は短期借入金や新株予約権付社債の減少によるものです。純資産は前期末に比べて35億90百万円減少し、874億73百万円となりました。主な減少の理由は利益剰余金の減少によるものです。以上の結果、自己資本比率は前期末より3.5ポイント上昇し79.5%となりました。

### 3 資金の流動性および源泉についての分析

#### (1) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末に比べて29億92百万円減少し、163億17百万円となりました。

各活動別のキャッシュ・フローの状況は次の通りであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動から得られたキャッシュ・フローは67億46百万円となり、前年同期に比べて47億68百万円の収入の増加となりました。おもに法人税等の還付を受けたことや売上債権の減少などの資金増加によるものです。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは有形固定資産の取得や有価証券および投資有価証券の取得などにより27億59百万円の資金の減少となりました。（前年同期は70百万円の資金の増加）

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは前年同期に比べて23億87百万円支出が増加し、66億81百万円の資金の減少となりました。おもに短期借入金の返済や配当金の支払などの資金支出によるものです。

#### (2) 財務政策

当社グループの資金調達においては、資金の用途、目的に対応して、営業活動から得られるキャッシュ・フロー、金融機関からの借入、転換社債型新株予約権付社債の発行等、多様な調達方法を組み合わせ、低コストかつ安定的な資金を確保するように努めております。

安全性を示す指標である自己資本比率及び流動比率は、当連結会計年度末においてそれぞれ、79.5%、428.3%となり、極めて良好な財務状態を保っております。

今後も当社グループが将来にわたり世界のリーディングカンパニーとして強固な地位を占め、安定的に成長を維持するために必要な運転資金および設備投資資金は、良好な財務状態および収益力の高い営業活動により、充分調達することが可能と考えております。

次期においても、世界の各市場においてグループ各社の連携による積極的な事業展開を推進するとともに、なお一層のコスト削減を進め、さらなる業績の向上、収益力の強化を図ってまいります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資につきましては、総額16億38百万円（有形固定資産分のみ）の投資を実施いたしました。

なお、事業の種類別セグメントに関連した設備投資については、当社及び主要な連結子会社が原則としてすべてのセグメントを分担しており、各セグメント別に関連付けることが困難であるため記載をしておりません。

#### 2 【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

平成22年3月31日現在

事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具、器具及 び備品	リース 資産		合計
本社及び本社 工場 (和歌山市)	横編機事業 デザインシステム関連事業 手袋靴下編機事業 その他事業	製造設備等	4,589	601	9,027 (158) 〔3〕	947	520	15,686	1,122

- (注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定は含めておりません。  
2 上記中の〔 〕内は、連結会社以外からの賃借土地の面積で、内数であります。  
3 現在休止中の主要な設備はありません。  
4 上記の他、連結会社以外からの主要な賃借設備の内容は下記のとおりであります。

事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの名称	設備の内容	リース期間	年間リース料 (百万円)	リース 契約残高 (百万円)
本社及び本社工場 (和歌山市)	横編機事業 デザインシステム関連事業 手袋靴下編機事業 その他事業	製造設備	7年間	376	920

##### (2) 国内子会社

平成22年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具、器具及 び備品	リース 資産		合計
(株)シマファイン プレス ティーエスエム 工業(株)	本社及び 本社工場 (和歌山市)	横編機事業 デザインシステム 関連事業 手袋靴下編機事業 その他事業	製造設備等	453	680	419 (33)	42	370	1,967	147

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。  
2 上記の他、連結会社以外からの主要な賃借設備の内容は下記のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの名称	設備の内容	リース期間	年間 リース料 (百万円)	リース 契約残高 (百万円)
(株)シマファインプレス ティーエスエム工業(株)	本社及び 本社工場 (和歌山市)	横編機事業 デザインシステム 関連事業 手袋靴下編機事業 その他事業	製造設備	7年間	270	724

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	142,000,000
計	142,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成22年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年6月30日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	36,600,000	36,600,000	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	36,600,000	36,600,000		

(注) 提出日現在の発行数には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### 新株予約権付社債

会社法に基づき発行した新株予約権付社債は、次のとおりであります。

2010年11月26日満期円貨建転換社債型新株予約権付社債(平成18年11月27日発行)		
	事業年度末現在 (平成22年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成22年5月31日)
新株予約権の数	388個	388個
新株予約権のうち自己新株予約権の数		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数	637,174株	637,174株
新株予約権の行使時の払込金額	(注1)	(注1)
新株予約権の行使期間	2006年12月11日から2010年11月12日の銀行営業終了時(いずれもロンドン時間)まで	2006年12月11日から2010年11月12日の銀行営業終了時(いずれもロンドン時間)まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 1株当たり3,060円 資本組入額 1株当たり1,530円	発行価格 1株当たり3,060円 資本組入額 1株当たり1,530円
新株予約権の行使の条件	各新株予約権の一部行使はできない。	各新株予約権の一部行使はできない。
新株予約権の譲渡に関する事項		
代用払込みに関する事項	(注2)	(注2)
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		
新株予約権付社債の残高	1,941百万円	1,941百万円

(注) 1 新株予約権の行使時の払込金額

- (1) 本新株予約権の行使に際しては、当該本新株予約権に係る本社債の全部を出資するものとし、当該本社債の価額は、その払込金額と同額とする。
- (2) 本新株予約権の行使に際して出資をなすべき1株当たりの額(以下「転換価額」という。)は、3,060円とする。
- (3) 転換価額は、本新株予約権付社債発行後、当社が当社普通株式の時価を下回る払込金額で新たに当社普通株式を発行又は当社の有する当社普通株式を処分する場合、次の算式により調整される。(なお、「既発行株式数」には当社が有する当社普通株式は含まない。)

$$\text{調整後転換価額} = \text{調整前転換金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行・処分株式数} \times \text{1株あたりの払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行・処分株式数}}$$

また、転換価額は、当社普通株式の分割(無償割当の場合を含む。)又は併合、当社普通株式の時価を下回る価額をもって当社普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)の発行、当社による一定の財産、金銭等の当社株主への分配(配当を除く。)、その他本新株予約権付社債の要項に定める一定の場合にも適宜調整される。但し、当社のストックオプション・プラン、インセンティブ・プランその他本新株予約権付社債の要項に定める一定の場合には調整は行われない。

2 代用払込みに関する事項

本新株予約権の行使に際して代用払込みは行われない。

ただし、本新株予約権の行使に際しては、当該本新株予約権に係る本社債の全部を出資するものとし、

当該本社債の価額は、本社債の額面金額と同額とする。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

平成22年2月1日以後に開始する事業年度に係る有価証券報告書から適用されるため、記載事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成20年8月13日(注)	1,000	36,600		14,859		21,724

(注) 発行済株式総数の減少は、自己株式の消却によるものであります。

(6) 【所有者別状況】

平成22年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	1	55	34	216	143	5	17,513	17,967	
所有株式数 (単元)	5	86,549	4,996	11,321	38,866	15	223,652	365,404	59,600
所有株式数 の割合(%)	0.00	23.68	1.37	3.10	10.64	0.00	61.21	100.00	

(注) 1 自己株式2,023,379株は、「個人その他」に20,233単元、「単元未満株式の状況」に79株含まれております。

2 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が3単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成22年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
島 正博	和歌山市	3,670	10.03
島 三博	和歌山市	1,825	4.99
日本トラスティ・サービス信託 銀行(株)(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,318	3.60
(株)紀陽銀行	和歌山市本町一丁目35番地	1,310	3.58
(株)三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	880	2.40
和島興産(株)	和歌山市吹上四丁目1番1号	850	2.32
シマセイキ社員持株会	和歌山市坂田85番地	819	2.24
日本マスタートラスト信託銀行 (株)(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	737	2.02
(株)泉州銀行	大阪府岸和田市宮本町26番15号	700	1.91
後藤ひろみ	和歌山市	697	1.91
計		12,807	35.00

- (注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式2,023千株(5.5%)があります。  
2. (株)泉州銀行は、平成22年5月1日付で(株)池田銀行と合併し、(株)池田泉州銀行となっております。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成22年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,023,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 34,517,100	345,171	
単元未満株式	普通株式 59,600		
発行済株式総数	36,600,000		
総株主の議決権		345,171	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が300株(議決権3個)含まれております。  
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式79株が含まれております。

【自己株式等】

平成22年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) (株)島精機製作所	和歌山市坂田85番地	2,023,300		2,023,300	5.53
計		2,023,300		2,023,300	5.53

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、新株予約権方式によるストックオプション制度を採用しております。

当該制度は、会社法第236条、第238条および第239条の規定に基づき、当社および当社子会社の取締役および従業員に対して、ストックオプションとして新株予約権を発行することならびに新株予約権の募集事項の決定を当社取締役会に委任することにつき、平成22年6月29日の定時株主総会において決議されたものであります。

当該制度の内容は、次のとおりであります。

決議年月日	平成22年6月29日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社および当社子会社の取締役および従業員 個別の付与対象者の決定については、新株予約権の割当にかかる取締役会決議による。
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数(株)	400,000株を上限とする。(注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注)2
新株予約権の行使期間	新株予約権の割当にかかる取締役会決議の日後2年を経過した日から5年以内とする。
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割当てを受けた者(以下、「新株予約権者」という。)は、権利行使時においても、当社または当社子会社の取締役、監査役および従業員の地位にあることを要するものとする。ただし、任期満了による退任、定年による退職、会社都合による退職、業務上の疾病に起因する退職および転籍その他正当な事由の存する場合は権利行使をなしうるものとする。 新株予約権者が死亡した場合は、新株予約権の相続を認めないものとする。 その他の条件については、本株主総会決議および新株予約権発行にかかる取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)3
新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金および資本準備金に関する事項	新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い計算される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。 新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
新株予約権の取得に関する事項	(注)4

(注)1 当社が株式分割(株式の無償割当を含む。以下、同じ)または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、上記のほか、割当日後、株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは合理的な範囲で当社は必要と認める株式数の調整を行う。



- 2 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、次により決定される1株当たりの払込金額（以下、「行使価額」という。）に新株予約権1個当たりの目的となる株式の数を乗じた金額とする。  
行使価額は、新株予約権を割り当てる日（以下、「割当日」という。）の属する月の前月の各日（取引が成立しない日を除く。）の大阪証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値の平均値に1.05を乗じた金額とし、1円未満の端数は切り上げるものとする。ただし、当該金額が新株予約権割当日の終値（割当日の終値がない場合は、それに先立つ直近日の終値）を下回る場合は、当該終値とする。  
なお、割当日後に下記の各事由が生じたときは、下記の各算式により調整された行使価額に新株予約権1個当たりの目的である株式の数を乗じた額とする。なお、調整後の行使価額は、1円未満の端数を切り上げる。

当社が株式分割または株式併合を行う場合

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

当社が時価を下回る価額で募集株式を発行（株式の無償割当てによる株式の発行および自己株式を交付する場合を含み、新株予約権（新株予約権付社債も含む）の行使による場合および当社の普通株式に転換できる証券の転換による場合を除く）する場合

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

ただし、算式中の既発行株式数は、上記の株式の発行の効力発生日の前日における当社の発行済株式総数から、当該時点における当社の保有する自己株式の数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合、「新規発行株式数」を「処分する自己株式の数」に、「新規発行前の株価」を「処分前の株価」にそれぞれ読み替えるものとする。

- 3 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合において、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

残存新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、「株式の数」（注）1に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、「新株予約権の行使時の払込金額」（注）2で定められる1株当たり行使価額を調整して得られる再編後行使価額に上記に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じた額とする。

新株予約権を行使することができる期間

「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の初日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の末日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

「新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金および資本準備金に関する事項」に準じて決定する。

新株予約権の譲渡制限

譲渡による取得については、再編対象会社の承認を要するものとする。

新株予約権の取得に関する事項

「新株予約権の取得に関する事項」（注）4に準じて決定する。

その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

4 新株予約権の取得に関する事項

当社が消滅会社となる合併契約書、当社が完全子会社となる株式交換契約書、または当社が分割会社となる会社分割についての分割計画書・分割契約書について株主総会の承認（株主総会の承認を要しない会社分割の場合は取締役会決議）がなされたとき、ならびに株式移転の議案につき株主総会の決議がなされたときは、当社は新株予約権の全部を無償にて取得することができる。

新株予約権者が、「新株予約権の行使の条件」の に定める規定に基づく新株予約権の行使の条件を満たさず、新株予約権を行使できなくなった場合もしくは新株予約権者が死亡した場合は、当社はその新株予約権を無償にて取得することができる。

その他の取得事由および取得条件については、本株主総会決議および新株予約権発行にかかる取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	1,809	3,675
当期間における取得自己株式	295	679

(注) 当期間における取得自己株式には、平成22年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(単元未満株式買増請求による売渡し)	50	158		
保有自己株式数	2,023,379		2,023,674	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成22年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけております。

利益配分につきましては、長期にわたって安定した配当を継続するとともに、業績の向上を基本として、今後の収益予想や将来への事業展開などを勘案し、積極的に実施すべきものと考えております。また、自己株式の取得につきましては、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を行うことを目的とし、機動的に実行してまいります。内部留保資金につきましては、中長期的視点に立った積極的な設備投資、研究開発投資や市場戦略投資など、経営基盤の強化並びに今後の事業展開に備え、積極的かつタイムリーに活用する方針であります。

当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めており、毎事業年度における剰余金の配当は期末と中間の2回行うことを基本方針としております。なお、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当期の配当金につきましては、既に中間配当金として1株につき20円00銭を実施しておりますが、期末配当金につきましては、期末の業績を勘案いたしまして、1株につき普通配当を10円00銭とさせていただきます。これにより中間配当金を加えた通期の配当金は1株につき30円00銭となりました。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成21年10月28日 取締役会決議	691	20.00
平成22年6月29日 定時株主総会決議	345	10.00

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第45期	第46期	第47期	第48期	第49期
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
最高(円)	3,520	3,350	6,710	4,600	2,660
最低(円)	2,540	2,530	2,995	1,260	1,600

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成21年10月	平成21年11月	平成21年12月	平成22年1月	平成22年2月	平成22年3月
最高(円)	2,050	1,842	1,819	2,000	1,813	2,175
最低(円)	1,808	1,600	1,623	1,706	1,676	1,739

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	営業本部長	島 正 博	昭和12年3月10日生	昭和36年7月 三伸精機(株)設立、 代表取締役社長 平成21年3月 当社代表取締役社長兼 営業本部長(現任)	(注)3	3,670
専務取締役	内部監査室、 物流部担当兼 管理本部長	田 中 雅 夫	昭和18年4月10日生	昭和38年5月 積水樹脂(株)入社 昭和57年10月 当社入社 昭和58年6月 当社取締役経理部長 平成9年6月 当社常務取締役経理部長 平成18年5月 当社専務取締役総務部、 内部監査室担当兼経理部長 平成20年11月 当社専務取締役総務部、 内部監査室、経理部担当 平成22年5月 当社専務取締役内部監査室 担当兼管理本部長 平成22年6月 当社専務取締役内部監査室、 物流部担当兼管理本部長(現任)	(注)3	51
常務取締役	生産技術部、 資材部、 トータル デザイン センター 担当兼 生産本部長	島 三 博	昭和36年6月23日生	昭和62年3月 当社入社 平成10年3月 当社システム開発部長 平成14年6月 当社取締役システム開発部長 平成16年6月 当社取締役グラフィックシステム 開発部長 平成18年10月 当社取締役制御システム開発部、 知的財産部、 トータルデザインセンター担当 兼グラフィックシステム開発部長 平成19年6月 当社常務取締役制御システム開発 部、知的財産部、 トータルデザインセンター担当兼 グラフィックシステム開発部長 平成19年11月 当社常務取締役知的財産部、 トータルデザインセンター担当兼 グラフィックシステム開発部長 平成21年3月 当社常務取締役 トータルデザインセンター担当兼 生産本部長 平成22年6月 当社常務取締役生産技術部、 資材部、トータルデザインセン ター担当兼生産本部長(現任)	(注)3	1,825
取締役	システム生産 技術部担当兼 製造技術 部長	和 田 隆	昭和22年11月15日生	昭和41年3月 当社入社 平成4年3月 当社製造技術部長 平成12年6月 当社取締役製造技術部長 平成22年6月 当社取締役システム生産技術部 担当兼製造技術部長(現任)	(注)3	30
取締役	島精機 (香港) 有限公司 CEO	梅 田 郁 人	昭和32年2月20日生	平成2年5月 当社入社 平成10年3月 当社営業部泉州支店長 平成16年6月 当社取締役輸出部長 平成19年11月 当社取締役輸出部長兼島精榮 有限公司CEO 平成20年11月 当社取締役輸出部担当兼島精榮 有限公司CEO 平成21年3月 当社取締役島精榮有限公司(現 島精機(香港)有限公司)CEO (現任)	(注)3	152
取締役	総務人事部長	藤 田 紀	昭和25年3月9日生	昭和47年3月 当社入社 平成13年5月 当社総務部人事担当部長 平成16年6月 当社取締役総務部長 平成22年5月 当社取締役総務人事部長(現任)	(注)3	36

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	開発本部長	有北礼治	昭和28年2月21日生	昭和46年3月 平成16年3月 平成18年6月 平成19年11月 平成21年3月	当社入社 当社メカトロ開発部長 当社取締役メカトロ開発部長 当社取締役制御システム開発部 担当兼メカトロ開発部長 当社取締役開発本部長(現任)	(注)3	7
取締役	国内営業部、 経営企画部 担当兼 海外営業 部長	中嶋利夫	昭和26年7月7日生	昭和61年2月 平成4年3月 平成13年6月 平成18年12月 平成22年6月	当社入社 当社営業企画部長 当社輸出部部长 SHIMA-ORSI S.R.L.(現 SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.)社長 当社取締役国内営業部、 経営企画部 担当兼海外営業部長(現任)	(注)3	8
取締役	管理部 担当兼 経理財務 部長	南木隆	昭和34年3月28日生	昭和61年3月 平成20年11月 平成22年5月 平成22年6月	当社入社 当社経理部長 当社経理財務部長 当社取締役管理部 担当兼経理財務部長(現任)	(注)3	0
常勤監査役		片桐正二郎	昭和25年10月1日生	昭和48年4月 平成13年5月 平成14年4月 平成14年6月 平成16年6月 平成19年11月 平成21年6月	(株)三和銀行(現(株)三菱東京UFJ 銀行)入行 当社に出向 総務部長 当社入社 当社取締役総務部長 当社取締役企画部長 当社取締役物流部 担当兼企画部長 当社常勤監査役(現任)	(注)5	2
常勤監査役		植田光紀	昭和26年1月30日生	昭和48年3月 平成18年10月 平成22年3月 平成22年6月	当社入社 当社営業部長 当社国内営業部参事 当社常勤監査役(現任)	(注)6	18
監査役		的場悠紀	昭和9年9月27日生	昭和35年4月 昭和43年4月 平成6年6月	弁護士登録(大阪弁護士会) 堂島法律事務所 開設 当社監査役(現任)	(注)4	0
監査役		八杉昌利	昭和18年3月1日生	平成13年8月 平成17年6月	八杉昌利税理士事務所 開設 当社監査役(現任)	(注)5	0
計							5,802

- (注) 1 監査役 的場悠紀及び八杉昌利は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 2 常務取締役 島三博は、代表取締役社長 島正博の長男であります。
- 3 取締役の任期は、平成22年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役 的場悠紀の任期は、平成19年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役 片桐正二郎、八杉昌利の任期は、平成21年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 監査役 植田光紀の任期は、平成22年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### (1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社はコーポレート・ガバナンスの充実を、経営の効率化及び健全性、透明性を向上させ、同時に株主、顧客、取引先、従業員などのステークホルダーズの利益を重視した経営を行うために重要な要件であると位置付けており、取締役会制度及び監査役制度等の機能を十分に発揮させることにより、適正かつ効果的なコーポレート・ガバナンスが実施できる体制を構築しております。

#### (2) コーポレート・ガバナンス体制の概要

当社は、監査役設置会社であり、監査役会は社外監査役2名を含め4名、取締役会は取締役9名（有価証券報告書提出日 平成22年6月30日現在）で構成しており、社外取締役は選任していません。

取締役会は業務執行状況を正確に把握し、迅速かつ柔軟に経営判断できるよう原則として毎月1回以上、必要に応じ随時機動的に開催し、法令で定められた事項及び経営上の重要事項の付議だけでなく業績の進捗についても議論し、経営方針を決定しております。各取締役の業務執行は、社内規則に基づく意思決定ルールにより、適正かつ効率的に行われる体制となっております。

当連結会計年度において、取締役会は19回開催しており、法令・定款に定められた事項や経営、決算に関する重要事項について、積極的な意見交換と適切な意思決定を行っております。

また当社グループにおける内部統制システムの構築を、単に法令の遵守にとどまらず、現状の業務全体を見直し強固な企業体質を築くことを通じて、「企業理念・目標を実現させる」ための要件であるとの認識のもと、その取組みを進めております。内部統制の実効性をより高めるため、代表取締役社長を責任者とする内部統制システム推進本部を社内に設置するとともに、公益通報者保護法に基づく「内部通報制度（企業倫理ヘルプライン）」を設けております。さらに「内部統制システムの整備に関する基本方針」を2006年5月8日開催の取締役会で決議し、その後取組みの進捗を加味し適宜内容の見直しを行っております。この方針に基づき、グループ全体におけるコンプライアンスの充実をはかるため、「シマセイキグループ行動基準」を見直し「コンプライアンス・マニュアル」として再整備するとともに、コンプライアンス委員会を設置し、全社的な意識向上に取り組んでいます。また、リスクマネジメントにおいては、リスク管理委員会を設置し、全社的に管理すべきリスクを特定、分析のうえ、対応策の検討を行い、リスクを継続的に監視する体制を構築しております。さらに、情報セキュリティ委員会のもと、情報資産の重要性を認識し、その適正な管理を図っています。

当社では、取締役会の適正な運営、機能の充実ならびに各委員会活動を通じた内部統制システムの取組みの強化とともに、監査役や内部監査室、会計監査人との連携により、適正かつ効果的なコーポレート・ガバナンスが行われる体制となっております。

#### (3) 内部監査、監査役監査及び会計監査の状況

当社は、内部統制を強化するため内部監査室（3名）を設置しており、監査役とは各々の独立性を重視しながら、定期的な会合を持つことで連携を強め、監査計画に基づいた効率的な内部監査を実施し、その状況を代表取締役社長に報告するとともに、適宜各部門にフィードバックしております。

また、当社の監査役は、常勤監査役2名、社外監査役2名（非常勤）で構成されています。監査役は、取締役会及びその他重要な会議への出席、重要な書類の閲覧、子会社の調査などを通じた監査を行うとともに、取締役等からの個別ヒアリングを含め積極的な情報収集に努め、取締役の職務執行を十分に監視できる体制となっております。また監査役会は定期的および必要に応じ開催しております。社外監査役は法務分野に精通した弁護士と財務および会計に関する相当程度の知見を有する税理士を選任しており、コンプライアンスおよび経理業務全般に対するチェック体制を充実させています。

当社の会計監査人は、大手前監査法人を選任しております。会計監査業務を執行した公認会計士は後藤芳朗（継続監査年数1年）、江本 律子（継続監査年数1年）であります。なお、当社の会計監査業務にかかる補助者は、公認会計士6名、その他2名であります。

監査役と会計監査人との間では、監査計画の確認を行い、定期的に当社および連結子会社の監査結果の報告を受け、必要に応じて報告を求めると、相互に情報交換を行い、連携を密にして監査の実効性および効率性の向上に努めております。

このように、監査役及び内部監査室、会計監査人が緊密に連携することにより、適確かつ十分なガバナンスを総合的に運用できる体制を維持しております。

#### （４）社外取締役および社外監査役

##### 社外監査役について

当社の社外監査役の員数は2名であります。

弁護士である的場 悠紀は法律的な観点から意見、提言等を行ってもらうことができるため社外監査役に選任しており、八杉 昌利は税理士としての豊富な経験をもとに、会社経営に関する諸事項について経理・税務的な立場での意見、提言等を行ってもらうことができるため社外監査役に選任しております。

それぞれ、中立的、客観的な見地から経営監視の役割を担っており、各分野での豊富な知識と経験をもとに、経営全般について大局的な観点で発言を行っております。

社外監査役とは、監査役会において常勤監査役の提供する監査情報や各監査役の監査結果の報告を通じて情報の共有化を図っております。なお、必要に応じ、内部監査室がサポートする体制としております。

##### 社外取締役について

当社は、社外取締役は選任しておりませんが、専門的知見を有する社外監査役と社内業務に精通した常勤監査役や内部監査室ならびに会計監査人が相互に連携をはかることで、経営の監視が十分機能する体制を構築しており、また各種委員会活動などによる内部統制システムの強化を図っております。

##### 社外監査役との関係

当社は、社外監査役との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありませんが、社外監査役的場悠紀が弁護士として所属する堂島法律事務所は、当社と法律関係の顧問契約を結んでおります。

#### （５）取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。また、取締役の選任については、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

(6) 株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとしている事項

(自己株式の取得)

当社は、事業環境の変化に対応した機動的な経営を遂行するため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。

(中間配当)

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、毎年9月30日を基準日として、取締役会の決議によって会社法第454条第5項に定める剰余金の配当(中間配当)をすることができる旨を定款に定めております。

(7) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(8) 役員報酬の内容

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる役員の 員数(人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役	115	79		36	11
監査役 (社外監査役を除く)	27	23		3	3
社外監査役	13	12		1	2

(注) 1. 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与(賞与を含む)は含まれておりません。

2. 上記には、平成21年6月26日開催の第48回定時株主総会をもって退任した取締役1名、監査役1名が含まれております。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

役員の報酬等の額の決定に関する方針

該当事項はありません。

(9) 株式の保有状況

イ 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数および貸借対照表計上額の合計額

銘柄数 31銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 3,102百万円



ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額および保有目的

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)紀陽ホールディングス	8,300,000	1,029	取引関係の維持・強化のため
(株)池田泉州ホールディングス	4,524,734	769	取引関係の維持・強化のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	103,000	318	取引関係の維持・強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	530,000	259	取引関係の維持・強化のため
(株)T&Dホールディングス	49,800	110	取引関係の維持・強化のため
(株)大和証券グループ本社	200,000	98	取引関係の維持・強化のため
フジッコ(株)	57,499	61	取引関係の維持・強化のため
東京海上ホールディングス(株)	11,000	28	取引関係の維持・強化のため
ノーリツ銅機(株)	43,200	28	取引関係の維持・強化のため
(株)オンワードホールディングス	27,194	19	取引関係の維持・強化のため

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	30		30	
連結子会社				
計	30		30	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数・監査業務などの内容を勘案した上で、監査役会の同意を得て決定しております。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)及び前事業年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)並びに当連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)及び当事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、大手前監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更については的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準設定主体等の行う研修に参加しております。

## 1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】  
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,695	16,961
受取手形及び売掛金	35,667	33,655
有価証券	402	1,400
商品及び製品	10,749	10,715
仕掛品	791	1,023
原材料及び貯蔵品	3,762	4,312
繰延税金資産	2,085	1,958
その他	5 4,950	5 1,702
貸倒引当金	2,835	2,871
流動資産合計	74,269	68,859
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	21,320	22,376
減価償却累計額	15,287	15,894
建物及び構築物(純額)	6,032	6,481
機械装置及び運搬具	6,997	5,013
減価償却累計額	4,034	3,602
機械装置及び運搬具(純額)	2,962	1,411
工具、器具及び備品	6,548	6,696
減価償却累計額	5,159	5,514
工具、器具及び備品(純額)	1,389	1,182
土地	2 10,917	2 10,992
リース資産	960	1,134
減価償却累計額	73	232
リース資産(純額)	886	901
建設仮勘定	545	126
有形固定資産合計	22,735	21,095
無形固定資産		
のれん	9,120	6,763
その他	146	133
無形固定資産合計	9,267	6,897
投資その他の資産		
投資有価証券	1 6,358	1 7,481
長期貸付金	35	24
繰延税金資産	2,421	2,060
その他	1 6,817	1 5,896
貸倒引当金	2,125	2,253
投資その他の資産合計	13,506	13,209
固定資産合計	45,508	41,202
資産合計	119,777	110,062

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,210	5,804
短期借入金	6,498	1,839
1年内返済予定の長期借入金	3,000	1,000
1年内償還予定の新株予約権付社債	-	1,941
リース債務	140	167
未払法人税等	32	236
賞与引当金	717	707
債務保証損失引当金	397	407
その他	5,367	3,972
流動負債合計	21,364	16,076
固定負債		
新株予約権付社債	2,805	-
長期借入金	1,000	3,000
リース債務	799	794
再評価に係る繰延税金負債	32	32
退職給付引当金	1,574	1,541
役員退職慰労引当金	1,138	1,144
固定負債合計	7,350	6,513
負債合計	28,714	22,589
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724
利益剰余金	71,511	68,415
自己株式	6,394	6,398
株主資本合計	101,700	98,601
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,210	1,061
土地再評価差額金	7,433	7,433
為替換算調整勘定	1,992	2,639
評価・換算差額等合計	10,636	11,133
少数株主持分	-	5
純資産合計	91,063	87,473
負債純資産合計	119,777	110,062

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
売上高	48,970	36,874
売上原価	24,318	22,735
売上総利益	24,651	14,139
販売費及び一般管理費	1, 5 16,123	1, 5 13,487
営業利益	8,528	651
営業外収益		
受取利息	670	478
受取配当金	69	55
雑収入	267	399
営業外収益合計	1,007	933
営業外費用		
支払利息	136	117
手形売却損	22	0
為替差損	4,489	1,242
雑損失	73	75
営業外費用合計	4,721	1,436
経常利益	4,814	148
特別利益		
固定資産売却益	2 306	-
債務保証損失引当金戻入益	37	-
投資有価証券売却益	-	204
為替換算調整勘定取崩額	-	459
その他	-	74
特別利益合計	344	738
特別損失		
固定資産除売却損	3 212	3 42
減損損失	4 246	4 79
のれん償却額	-	6 1,517
投資有価証券評価損	317	26
関係会社出資金評価損	325	119
その他	-	143
特別損失合計	1,101	1,928
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	4,057	1,041
法人税、住民税及び事業税	371	454
法人税等調整額	1,232	388
法人税等合計	1,604	843
少数株主利益	687	0
当期純利益又は当期純損失( )	1,765	1,885

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	14,859	14,859
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	14,859	14,859
<b>資本剰余金</b>		
前期末残高	22,396	21,724
当期変動額		
自己株式の処分	66	-
自己株式の消却	606	-
当期変動額合計	672	-
当期末残高	21,724	21,724
<b>利益剰余金</b>		
前期末残高	74,924	71,511
当期変動額		
剰余金の配当	1,970	1,210
当期純利益又は当期純損失( )	1,765	1,885
自己株式の取得	-	0
自己株式の処分	0	-
自己株式の消却	3,247	-
土地再評価差額金の取崩	40	-
当期変動額合計	3,412	3,095
当期末残高	71,511	68,415
<b>自己株式</b>		
前期末残高	5,322	6,394
当期変動額		
自己株式の取得	5,096	3
自己株式の処分	170	0
自己株式の消却	3,854	-
当期変動額合計	1,071	3
当期末残高	6,394	6,398
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	106,857	101,700
当期変動額		
剰余金の配当	1,970	1,210
当期純利益又は当期純損失( )	1,765	1,885
自己株式の取得	5,096	3
自己株式の処分	102	0
自己株式の消却	-	-
土地再評価差額金の取崩	40	-
当期変動額合計	5,157	3,099
当期末残高	101,700	98,601

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	572	1,210
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	638	149
当期変動額合計	638	149
当期末残高	1,210	1,061
<b>土地再評価差額金</b>		
前期末残高	7,392	7,433
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	40	-
当期変動額合計	40	-
当期末残高	7,433	7,433
<b>為替換算調整勘定</b>		
前期末残高	1,038	1,992
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	954	646
当期変動額合計	954	646
当期末残高	1,992	2,639
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	9,003	10,636
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,633	497
当期変動額合計	1,633	497
当期末残高	10,636	11,133
<b>少数株主持分</b>		
前期末残高	3,792	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,792	5
当期変動額合計	3,792	5
当期末残高	-	5
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	101,647	91,063
当期変動額		
剰余金の配当	1,970	1,210
当期純利益又は当期純損失（ ）	1,765	1,885
自己株式の取得	5,096	3
自己株式の処分	102	0
土地再評価差額金の取崩	40	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	5,426	491
当期変動額合計	10,583	3,590
当期末残高	91,063	87,473

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	4,057	1,041
減価償却費	2,358	2,163
のれん償却額	502	2,014
貸倒引当金の増減額( は減少)	529	211
債務保証損失引当金の増減額( は減少)	246	25
退職給付引当金の増減額( は減少)	167	125
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	51	10
受取利息及び受取配当金	740	534
支払利息	136	117
為替差損益( は益)	1,130	1,023
有形固定資産売却損益( は益)	170	3
有形固定資産廃棄損	76	39
為替換算調整勘定取崩額( は益)	-	459
売上債権の増減額( は増加)	3,452	904
たな卸資産の増減額( は増加)	21	63
仕入債務の増減額( は減少)	2,025	501
その他	2,161	488
小計	11,128	4,398
利息及び配当金の受取額	720	539
利息の支払額	144	127
法人税等の支払額又は還付額( は支払)	9,726	1,955
その他	-	20
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,977	6,746
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	884	1,562
定期預金の払戻による収入	925	799
有価証券の取得による支出	4,695	3,897
有価証券の売却による収入	8,200	2,902
有形固定資産の取得による支出	3,207	1,490
有形固定資産の売却による収入	1,143	455
投資有価証券の取得による支出	237	986
投資有価証券の売却による収入	25	347
関係会社株式の取得による支出	214	80
事業譲受による支出	457	-
貸付けによる支出	0	24
貸付金の回収による収入	-	94
子会社の清算による収入	-	590
その他	526	93
投資活動によるキャッシュ・フロー	70	2,759



	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	6,381	4,471
長期借入れによる収入	1,000	3,000
長期借入金の返済による支出	-	3,000
自己株式の取得による支出	5,096	3
自己株式の売却による収入	2	0
少数株主からの株式の取得による支出	4,613	-
配当金の支払額	1,968	1,209
社債の買入消却による支出	-	851
その他	-	145
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,294	6,681
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,086	298
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	3,333	2,992
現金及び現金同等物の期首残高	22,643	19,310
現金及び現金同等物の期末残高	19,310	16,317

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社の数 14社 連結子会社の名称 「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。 東洋紡糸工業(株)は当連結会計年度において新たに設立したことにより、SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.は新たに株式を取得したことにより連結子会社に含めております。</p> <p>(2) 非連結子会社の名称等 SHIMAX ITALIA S.R.L.他5社 (連結の範囲から除いた理由) 非連結子会社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>	<p>(1) 連結子会社の数 14社 連結子会社の名称 同左</p> <p>東莞島榮貿易有限公司、SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD.を当連結会計年度において新たに設立したことにより連結子会社に含めております。 また、当連結会計年度においてNOVA KNITS INC.を清算したこと、(株)ニットマックを当社に吸収合併したことにより連結の範囲より除外しております。 なお、当連結会計年度において島精榮有限公司を島精機(香港)有限公司、SHIMA-ORSI S.P.A.をSHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.に名称変更しております。 (会計方針の変更) 当連結会計年度から「連結財務諸表における子会社及び関連会社の範囲の決定に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第22号 平成20年5月13日)を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。</p> <p>(2) 非連結子会社の名称等 希摩(上海)貿易有限公司他5社 (連結の範囲から除いた理由) 同左</p>
2 持分法の適用に関する事項	<p>(1) 持分法を適用した非連結子会社はありません。</p> <p>(2) 持分法を適用していない非連結子会社の名称等 SHIMAX ITALIA S.R.L. 他5社 (持分法を適用していない理由) 持分法非適用会社は、それぞれ当期純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響額が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。</p>	<p>(1) 持分法を適用した非連結子会社はありません。</p> <p>(2) 持分法を適用していない非連結子会社の名称等 希摩(上海)貿易有限公司他5社 (持分法を適用していない理由) 同左</p>

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
3 連結子会社の事業 年度等に関する事 項	<p>連結子会社の決算日は7社(SHIMA SEIKI U.S.A. INC.、SHIMA SEIKI EUROPE LTD.、島精榮榮有限公司、NOVA KNITS INC.、SHIMA-ORSI S.P.A.、島精榮榮(上海)貿易有限公司、SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.)を除いて連結決算日と同じであります。12月31日を決算日とするSHIMA SEIKI U.S.A. INC.、SHIMA SEIKI EUROPE LTD.、NOVA KNITS INC.、SHIMA-ORSI S.P.A.、SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.については、決算日現在の財務諸表を使用して連結しており、連結決算日との間に生じた重要な取引については調整を行っております。</p> <p>また、島精榮榮有限公司、島精榮榮(上海)貿易有限公司(決算日 12月31日)については連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用して連結しております。</p>	<p>連結子会社の決算日は8社(SHIMA SEIKI U.S.A. INC.、SHIMA SEIKI EUROPE LTD.、島精機(香港)有限公司、SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.、島精榮榮(上海)貿易有限公司、SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.、東莞島精榮貿易有限公司、SHIMA SEIKI (THAILAND) CO.,LTD.)を除いて連結決算日と同じであります。12月31日を決算日とするSHIMA SEIKI U.S.A. INC.、SHIMA SEIKI EUROPE LTD.、SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.、SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.については、決算日現在の財務諸表を使用して連結しており、連結決算日との間に生じた重要な取引については調整を行っております。</p> <p>また、島精機(香港)有限公司、島精榮榮(上海)貿易有限公司、東莞島精榮貿易有限公司、SHIMA SEIKI (THAILAND) CO.,LTD. (決算日 12月31日)については連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用して連結しております。</p>
4 会計処理基準に関 する事項	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法 有価証券</p> <p>1 満期保有目的の債券 償却原価法(定額法)を採用しております。</p> <p>2 その他有価証券 時価のあるもの 決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。</p> <p>時価のないもの 総平均法に基づく原価法を採用しております。</p> <p>デリバティブ 時価法を採用しております。</p> <p>たな卸資産 評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。</p> <p>1 製品、原材料及び仕掛品 主として移動平均法を採用しております。</p> <p>2 貯蔵品 主として先入先出法を採用しております。</p> <p>3 商品(在外連結子会社) 主として個別法を採用しております。</p>	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法 有価証券</p> <p>1 満期保有目的の債券 同左</p> <p>2 その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p> <p>デリバティブ 同左</p> <p>たな卸資産 同左</p> <p>1 製品、原材料及び仕掛品 同左</p> <p>2 貯蔵品 同左</p> <p>3 商品(在外連結子会社) 同左</p>

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)						
	<p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法            有形固定資産(リース資産を除く)            当社及び国内連結子会社については、主として定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)を採用し、在外連結子会社については、主として定額法を採用しております。            なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td>3～60年</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td>2～12年</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>2～20年</td> </tr> </table> <p>(追加情報)            当社及び国内連結子会社の機械装置については、従来、耐用年数を3～12年としておりましたが、当連結会計年度より2～12年に変更しております。            これは、平成20年度の税制改正を契機に機械装置の利用状況を勘案した結果、耐用年数を見直したことによるものであります。            なお、当該変更に伴う影響は軽微であります。</p> <p>無形固定資産            定額法を採用しております。            なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(3～5年)に基づいております。</p> <p>リース資産            所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。            なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	建物及び構築物	3～60年	機械装置及び運搬具	2～12年	工具、器具及び備品	2～20年	<p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法            有形固定資産(リース資産を除く)            同左</p> <p>無形固定資産            同左</p> <p>リース資産            同左</p>
建物及び構築物	3～60年							
機械装置及び運搬具	2～12年							
工具、器具及び備品	2～20年							

	<p>前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>
	<p>(3) 引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。 また在外連結子会社は、債権の回収可能性を個別に検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金 従業員賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。</p> <p>債務保証損失引当金 当社製品を購入した顧客のリース会社及び提携金融機関に対する債務保証に係る損失に備えるため、発生可能性を個別に検討して算定した損失見込額を計上しております。</p> <p>退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。</p> <p>役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>(3) 引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金 同左</p> <p>賞与引当金 同左</p> <p>債務保証損失引当金 同左</p> <p>退職給付引当金 同左</p> <p>(会計方針の変更) 当連結会計年度から「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。これによる損益に与える影響はありません。</p> <p>役員退職慰労引当金 同左</p>

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
	<p>(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。</p> <p>(5) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、先物為替予約については 振当処理を、金利スワップについては 特例処理を採用しております。</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>1 ヘッジ手段 先物為替予約取引 通貨オプション取引 金利スワップ取引</p> <p>2 ヘッジ対象 外貨建金銭債権 借入金</p> <p>ヘッジ方針 社内規程に基づき、外貨建取引における為替変動リスク及び借入金の金利変動リスクをヘッジしております。取組時は、実需の範囲で行うことを原則とし、投機目的のための取引は行わない方針であります。</p> <p>ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ手段とヘッジ対象における通貨・期日等の重要な条件が同一であり、その後の為替相場及び金利相場の変動による相関関係は確保されているため、有効性の評価を省略しております。</p> <p>(6) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>	<p>(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準 同左</p> <p>(5) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>1 ヘッジ手段 先物為替予約取引 金利スワップ取引</p> <p>2 ヘッジ対象 同左</p> <p>ヘッジ方針 同左</p> <p>ヘッジ有効性評価の方法 同左</p> <p>(6) 消費税等の会計処理 同左</p>

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	全面時価評価法を採用しております。	同左
6 のれんの償却に関する事項	のれんの償却については、20年間の定額法による償却を行っております。	同左
7 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	同左

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<p>(棚卸資産の評価に関する会計基準)</p> <p>当連結会計年度より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)を適用しております。</p> <p>これによる当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。</p>	
<p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によりおりましたが、当連結会計年度より、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。</p> <p>なお、リース取引会計基準の改正適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を採用しております。</p> <p>これによる当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。</p>	
<p>(重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準)</p> <p>在外子会社等の収益及び費用については、従来、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当連結会計年度より、期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更いたしました。</p> <p>この変更は、全会計期間を通じた為替相場を反映している期中平均為替相場による換算を採用することにより、損益情報をより実態に即して的確に表示する目的で行ったものであります。</p> <p>この結果、従来の方法に比べ、売上高は3,042百万円、営業利益は1,608百万円、経常利益は252百万円、税金等調整前当期純利益は276百万円それぞれ増加しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は当該箇所に記載しております。</p>	



## 【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>(連結貸借対照表)</p> <p>財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成20年8月7日内閣府令第50号)が適用となることに伴い、前連結会計年度において、「たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」に区分掲記しております。</p> <p>なお、前連結会計年度の「たな卸資産」に含まれる「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」は、それぞれ11,549百万円、1,107百万円、3,521百万円であります。</p>	
<p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>1. 営業活動によるキャッシュ・フローの「為替差損益(は益)」(前連結会計年度156百万円)は重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。</p> <p>2. 営業活動によるキャッシュ・フローの「有形固定資産売却損益(は益)」はEDINETへのXBRL導入に伴い、連結財務諸表の比較可能性を向上させるため、前連結会計年度において「有形固定資産売却益」と「有形固定資産売却及び廃棄損」のうち「有形固定資産売却損」を統合したものであります。</p> <p>なお、前連結会計年度の「有形固定資産売却損益(は益)」、「有形固定資産廃棄損」はそれぞれ68百万円、50百万円であります。</p>	

【注記事項】  
(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)			当連結会計年度 (平成22年3月31日)		
1 非連結子会社に対するものは次のとおりであります。			1 非連結子会社に対するものは次のとおりであります。		
投資有価証券(株式)	113百万円		投資有価証券(株式)	193百万円	
その他(出資金)	888百万円		その他(出資金)	96百万円	
2 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。			2 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。		
・再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に合理的な調整を行って算出しております。			・再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に合理的な調整を行って算出しております。		
・再評価を行った年月日 平成14年3月31日			・再評価を行った年月日 平成14年3月31日		
・再評価を行った土地の当期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額 2,573百万円			・再評価を行った土地の当期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額 2,877百万円		
3 保証債務			3 保証債務		
被保証者	保証金額 (百万円)	内容	取引先に対する債務の保証		
WOORI TEXTILE	8	取引債務	販売機械購入資金ローン(84社) 2,090百万円		
計	8		リース債務 (89社) 597百万円		
この他、取引先(100社)に対する販売機械(所有権留保付)に係る購入資金ローンの保証額が、2,579百万円あります。					
また、リース利用により当社製品を使用する顧客(74社)のリース契約に関して、リース物件の引取を条件としたリース債務の保証残高が、648百万円あります。					
4 手形割引高			4 手形割引高		
受取手形	13百万円		受取手形	26百万円	
5 現先取引の担保として自由処分権のある有価証券を受け入れており、当連結会計年度末日の時価は998百万円であります。			5 現先取引の担保として自由処分権のある有価証券を受け入れており、当連結会計年度末日の時価は499百万円であります。		

## (連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)																																
<p>1 販売費及び一般管理費のうち、主なものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">運賃荷造費</td><td style="text-align: right;">1,290百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">524百万円</td></tr> <tr><td>従業員給料手当</td><td style="text-align: right;">2,798百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">196百万円</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">107百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">51百万円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">1,139百万円</td></tr> <tr><td>研究開発費</td><td style="text-align: right;">2,651百万円</td></tr> </table>	運賃荷造費	1,290百万円	貸倒引当金繰入額	524百万円	従業員給料手当	2,798百万円	賞与引当金繰入額	196百万円	退職給付費用	107百万円	役員退職慰労引当金繰入額	51百万円	減価償却費	1,139百万円	研究開発費	2,651百万円	<p>1 販売費及び一般管理費のうち、主なものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">運賃荷造費</td><td style="text-align: right;">1,059百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">334百万円</td></tr> <tr><td>従業員給料手当</td><td style="text-align: right;">2,780百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">203百万円</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">115百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">48百万円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">733百万円</td></tr> <tr><td>研究開発費</td><td style="text-align: right;">2,325百万円</td></tr> </table>	運賃荷造費	1,059百万円	貸倒引当金繰入額	334百万円	従業員給料手当	2,780百万円	賞与引当金繰入額	203百万円	退職給付費用	115百万円	役員退職慰労引当金繰入額	48百万円	減価償却費	733百万円	研究開発費	2,325百万円
運賃荷造費	1,290百万円																																
貸倒引当金繰入額	524百万円																																
従業員給料手当	2,798百万円																																
賞与引当金繰入額	196百万円																																
退職給付費用	107百万円																																
役員退職慰労引当金繰入額	51百万円																																
減価償却費	1,139百万円																																
研究開発費	2,651百万円																																
運賃荷造費	1,059百万円																																
貸倒引当金繰入額	334百万円																																
従業員給料手当	2,780百万円																																
賞与引当金繰入額	203百万円																																
退職給付費用	115百万円																																
役員退職慰労引当金繰入額	48百万円																																
減価償却費	733百万円																																
研究開発費	2,325百万円																																
<p>2 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">機械装置</td><td style="text-align: right;">303百万円</td></tr> <tr><td>車両運搬具他</td><td style="text-align: right;">3百万円</td></tr> </table>	機械装置	303百万円	車両運搬具他	3百万円																													
機械装置	303百万円																																
車両運搬具他	3百万円																																
<p>3 固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td colspan="2">(売却損)</td></tr> <tr><td style="width: 80%;">機械装置</td><td style="text-align: right;">134百万円</td></tr> <tr><td>土地他</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> <tr><td colspan="2">(除却損)</td></tr> <tr><td>機械装置</td><td style="text-align: right;">48百万円</td></tr> <tr><td>工具器具備品</td><td style="text-align: right;">12百万円</td></tr> <tr><td>建物他</td><td style="text-align: right;">15百万円</td></tr> </table>	(売却損)		機械装置	134百万円	土地他	0百万円	(除却損)		機械装置	48百万円	工具器具備品	12百万円	建物他	15百万円	<p>3 固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td colspan="2">(売却損)</td></tr> <tr><td style="width: 80%;">車両運搬具</td><td style="text-align: right;">2百万円</td></tr> <tr><td>機械装置他</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> <tr><td colspan="2">(除却損)</td></tr> <tr><td>建物</td><td style="text-align: right;">27百万円</td></tr> <tr><td>機械装置</td><td style="text-align: right;">5百万円</td></tr> <tr><td>工具器具備品他</td><td style="text-align: right;">6百万円</td></tr> </table>	(売却損)		車両運搬具	2百万円	機械装置他	0百万円	(除却損)		建物	27百万円	機械装置	5百万円	工具器具備品他	6百万円				
(売却損)																																	
機械装置	134百万円																																
土地他	0百万円																																
(除却損)																																	
機械装置	48百万円																																
工具器具備品	12百万円																																
建物他	15百万円																																
(売却損)																																	
車両運搬具	2百万円																																
機械装置他	0百万円																																
(除却損)																																	
建物	27百万円																																
機械装置	5百万円																																
工具器具備品他	6百万円																																
<p>4 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">場所</th> <th style="width: 15%;">用途</th> <th style="width: 15%;">種類</th> <th style="width: 15%;">減損損失 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>和歌山県白浜町</td> <td>ホテル事業</td> <td>土地、建物</td> <td style="text-align: center;">246</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社グループは事業内容を資産グルーピングの基礎として横編機事業・デザインシステム関連事業・手袋靴下編機事業・その他事業及び各賃貸資産・遊休資産にグルーピングしております。</p> <p>上記資産は、帳簿価額と比較して市場価額が著しく低下しているため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（246百万円）として特別損失に計上しております。</p> <p>その内訳は土地79百万円、建物166百万円であります。</p> <p>なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、不動産鑑定評価等に基づき算定しております。</p>	場所	用途	種類	減損損失 (百万円)	和歌山県白浜町	ホテル事業	土地、建物	246	<p>4 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">場所</th> <th style="width: 15%;">用途</th> <th style="width: 15%;">種類</th> <th style="width: 15%;">減損損失 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大阪府岬町</td> <td>遊休資産</td> <td>土地</td> <td style="text-align: center;">16</td> </tr> <tr> <td>和歌山県和歌山市</td> <td>遊休資産</td> <td>土地</td> <td style="text-align: center;">63</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社グループは事業内容を資産グルーピングの基礎として横編機事業・デザインシステム関連事業・手袋靴下編機事業・その他事業及び各賃貸資産・遊休資産にグルーピングしております。</p> <p>上記資産は、帳簿価額と比較して市場価額が著しく低下しているため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（79百万円）として特別損失に計上しております。</p> <p>なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、路線価による相続税評価額等を基礎として評価しております。</p>	場所	用途	種類	減損損失 (百万円)	大阪府岬町	遊休資産	土地	16	和歌山県和歌山市	遊休資産	土地	63												
場所	用途	種類	減損損失 (百万円)																														
和歌山県白浜町	ホテル事業	土地、建物	246																														
場所	用途	種類	減損損失 (百万円)																														
大阪府岬町	遊休資産	土地	16																														
和歌山県和歌山市	遊休資産	土地	63																														
<p>5 一般管理費に含まれる研究開発費</p> <p style="text-align: right;">2,651百万円</p>	<p>5 一般管理費に含まれる研究開発費</p> <p style="text-align: right;">2,325百万円</p>																																
	<p>6 のれん償却額 当社の個別財務諸表上、関係会社株式評価損を計上したことに伴い、「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針（会計制度委員会報告 第7号）」第32項に従って、のれんを一時償却したものであります。</p>																																

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	37,600		1,000	36,600

(注)発行済株式の減少は自己株式の消却によるものであります。

2 自己株式に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	1,052	2,003	1,033	2,021

(注)1.自己株式の増加2,003千株は経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を行うための株式の取得による増加2,000千株及び単元未満株式の買取り請求による増加3千株であります。

2.自己株式の減少1,033千株は新株予約権付社債の株式転換請求による減少32千株、単元未満株式の売渡しによる減少1千株及び自己株式の消却による減少1,000千株であります。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,096百万円	30円00銭	平成20年3月31日	平成20年6月30日
平成20年10月30日 取締役会	普通株式	873百万円	25円00銭	平成20年9月30日	平成20年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成21年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	518百万円	15円00銭	平成21年3月31日	平成21年6月29日

当連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	36,600			36,600

2 自己株式に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	2,021	1	0	2,023

(注)1.自己株式の増加1千株は単元未満株式の買取りによる増加であります。

2.自己株式の減少0千株は単元未満株式の売渡しによる減少であります。

## 3 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成21年6月26日 定時株主総会	普通株式	518百万円	15円00銭	平成21年3月31日	平成21年6月29日
平成21年10月28日 取締役会	普通株式	691百万円	20円00銭	平成21年9月30日	平成21年12月4日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	345百万円	10円00銭	平成22年3月31日	平成22年6月30日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係		1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	
現金及び預金勘定	18,695百万円	現金及び預金勘定	16,961百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	384百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	1,144百万円
流動資産その他に含まれる		流動資産その他に含まれる	
短期貸付金(現先)	998百万円	短期貸付金(現先)	499百万円
現金及び現金同等物	19,310百万円	現金及び現金同等物	16,317百万円

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)																																
<p>ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 有形固定資産 横編機事業、デザインシステム関連事業、手袋靴下編機事業及びその他事業における生産設備等（機械装置及び運搬具他）であります。 リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4.会計処理基準に関する事項（2）重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td>4,929</td> <td>2,561</td> <td>2,367</td> </tr> <tr> <td>工具器具備品</td> <td>121</td> <td>65</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5,050</td> <td>2,627</td> <td>2,423</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額 1年以内 791百万円 1年超 1,716百万円 計 2,508百万円</p> <p>(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 支払リース料 905百万円 減価償却費相当額 852百万円 支払利息相当額 36百万円</p> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>(5) 利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。</p>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	機械装置及び運搬具	4,929	2,561	2,367	工具器具備品	121	65	55	合計	5,050	2,627	2,423	<p>ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 有形固定資産 同左  リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td>4,359</td> <td>2,697</td> <td>1,662</td> </tr> <tr> <td>工具器具備品</td> <td>91</td> <td>60</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,451</td> <td>2,757</td> <td>1,694</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額 1年以内 595百万円 1年超 1,121百万円 計 1,716百万円</p> <p>(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 支払リース料 702百万円 減価償却費相当額 683百万円 支払利息相当額 17百万円</p> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 同左</p> <p>(5) 利息相当額の算定方法 同左</p>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	機械装置及び運搬具	4,359	2,697	1,662	工具器具備品	91	60	31	合計	4,451	2,757	1,694
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																														
機械装置及び運搬具	4,929	2,561	2,367																														
工具器具備品	121	65	55																														
合計	5,050	2,627	2,423																														
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																														
機械装置及び運搬具	4,359	2,697	1,662																														
工具器具備品	91	60	31																														
合計	4,451	2,757	1,694																														

(金融商品関係)

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に横編機の製造販売事業を行うために必要な資金を銀行借入や社債発行などにより調達しており、一時的な余資については安全性の高い金融資産で運用しております。また、デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業展開を行っていることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、一部について先物為替予約を利用してヘッジを行っております。有価証券及び投資有価証券は、主に取引先企業の株式や投資信託などであり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。また、その一部は、部品等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、恒常的に同じ外貨建ての受取手形及び売掛金の残高の範囲内にあります。借入金は、主に運転資金及び設備投資資金の調達を目的としたものであり、返済日は決算日後、最長で2年半後であります。このうち一部は変動金利であるため金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引と借入金に係る金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、営業債権について内部規程に基づき、関連部門が情報共有を図りながら、取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社グループは、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握した為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジを行っております。また借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するため、一部について金利スワップ取引を利用しております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況についても継続的に見直しを行っております。

デリバティブ取引については、内部規程に基づいて行っており、予約状況等について取締役会等に随時報告しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、各部署及び関係会社からの報告等に基づき、経理財務部及び各社が適時に資金繰計画を作成することにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照）。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	16,961	16,961	
(2) 受取手形及び売掛金	33,655		
貸倒引当金	2,860		
	30,794	30,639	155
(3) 有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券	6,885	6,885	
資産計	54,641	54,486	155
(1) 支払手形及び買掛金	5,804	5,804	
(2) 短期借入金	1,839	1,839	
(3) 1年内償還予定の新株予約権 付社債	1,941	1,941	
(4) 長期借入金（ 1 ）	4,000	3,998	1
負債計	13,585	13,584	1
デリバティブ取引			

（ 1 ） 1年内返済予定の長期借入金を含めております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

信用リスクを個別に把握することが困難なため、貸倒引当金を信用リスクとみなし回収期日までの期間をリスクフリーレートで割り引いて算定する方法によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格、債券は取引金融機関から提示された価格、投資信託は公表されている基準価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照下さい。



負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 1年内償還予定の新株予約権付社債

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記をご参照下さい。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表計上額
(1) 満期保有目的の債券	
非上場内国債券	399
(2) その他有価証券	
非上場株式	493
投資事業有限責任組合への出資	103
その他	1,000

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	16,961			
受取手形及び売掛金	21,214	12,424	16	
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	399			
その他有価証券のうち満期があるもの		459	985	
合計	38,576	12,883	1,002	

(注4) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

(有価証券関係)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1 その他有価証券で時価のあるもの

区分		前連結会計年度 (平成21年3月31日)		
		取得原価 (百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1) 株式	222	311	88
	(2) その他の 小計	222	311	88
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1) 株式	2,870	1,741	1,128
	(2) 債券 その他	1,095	1,064	30
	(3) その他の 小計	3,682	2,725	956
	小計	7,647	5,531	2,116
合計		7,869	5,842	2,027

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
(注) 減損処理にあたっては、決算期末日における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、すべて減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、個別銘柄毎に、過去2年間における最高値・最安値と帳簿価格との乖離状況等保有有価証券の時価水準の推移を把握するとともに、発行会社の業況の推移等を把握し、回復可能性を検討の上、必要と認められる額について減損処理を行うこととしております。 なお、当連結会計年度において、317百万円の減損処理を行っております。

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
売却損益の合計額の金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3 時価評価されていない有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額

区分	前連結会計年度 (平成21年3月31日)
	(百万円)
(1) 満期保有目的の債券 非上場内国債券	399
(2) その他有価証券 非上場株式	413
投資事業有限責任組合への出資	86
転換社債	20

4 その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額

区分	前連結会計年度 (平成21年3月31日)		
	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)
(1) 満期保有目的の債券 割引金融債	399		
(2) その他有価証券 債券			
その他	115		969
その他	3	349	27
合計	517	349	996

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1 その他有価証券(平成22年3月31日)

(単位：百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	745	609	135
その他	46	35	10
小計	791	645	146
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	2,126	3,429	1,303
債券	960	1,000	39
その他	3,007	3,592	585
小計	6,093	8,022	1,929
合計	6,885	8,667	1,782

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額 1,596百万円)については、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

(単位：百万円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	0		15
債券	300	204	
合計	300	204	15

3 減損処理を行った有価証券(自 平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

当連結会計年度において、有価証券について26百万円の減損処理を行っております。なお、減損処理にあたっては、決算期末日における時価が取得価額に比べ50%以上下落した場合には、全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、個別銘柄毎に、過去2年間における最高値・最安値と帳簿価格との乖離状況等保有有価証券の時価水準の推移を把握するとともに、発行会社の業況の推移等を把握し、回復

可能性を検討の上、必要と認められる額について減損処理を行うこととしております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1 取引の状況に関する事項

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
<p>取引の内容及び利用目的等</p> <p>当社グループは通常の営業過程における輸出取引の為替相場の変動によるリスクを軽減するため、先物為替予約取引(原則として個別予約)を行っております。</p> <p>また、借入金に係る将来の金利変動によるリスクを軽減する目的で、金利スワップ取引を行っております。</p> <p>なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。</p> <p>(1) ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>ヘッジ手段 先物為替予約取引、通貨オプション取引、金利スワップ取引</p> <p>ヘッジ対象 外貨建金銭債権、借入金</p> <p>(2) ヘッジ方針</p> <p>社内規程に基づき、外貨建取引における為替変動リスク及び借入金の金利変動リスクをヘッジしております。</p> <p>(3) ヘッジ有効性評価の方法</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象における通貨・期日等の重要な条件が同一であり、その後の為替相場及び金利相場の変動による相関関係は確保されているため、有効性の評価を省略しております。</p> <p>取引に対する取組方針</p> <p>通貨関連におけるデリバティブ取引は外貨建売掛債権残高及び受注残高の範囲内で行うこととし、金利関連におけるデリバティブ取引は借入金残高の範囲内で行うこととしており、いずれも投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。</p> <p>取引に係るリスクの内容</p> <p>通貨関連における先物為替予約取引は、為替相場の変動リスクを有しており、金利関連における金利スワップ取引は市場金利の変動リスクを有しております。</p> <p>当該デリバティブ取引の契約先は信用度の高い金融機関であるため、相手先の契約不履行による、いわゆる信用リスクはほとんどないと判断しております。</p> <p>取引に係るリスク管理体制</p> <p>デリバティブ取引の実行及び管理は、当社経理部を中心として行い、「社内規程」により、取引権限の限度及び取引限度額等を定め、運用を行っております。</p>

## 2 取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

なお、為替予約取引及び金利スワップ取引を行っておりますが、いずれもヘッジ会計を適用しておりますので注記の対象から除いております。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

### 1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

### 2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

#### (1) 通貨関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
為替予約の振当処理	為替予約取引	受取手形及び売掛金			
	売建				
	米ドル		2,213		(注)
	ユーロ		1,909		(注)
	合計		4,123		(注)

(注) 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている受取手形及び売掛金と一体として処理されているため、その時価は受取手形及び売掛金の時価に含めて記載しております。

#### (2) 金利関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引	長期借入金			
	支払固定・受取変動		900	900	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は長期借入金の時価に含めて記載しております。

## (退職給付関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																												
<p>1 採用している退職給付制度の概要 当社及び国内連結子会社の一部は、確定給付型の制度として、適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けております。なお、提出会社については昭和41年2月より退職金制度の一部として、定年退職について適格退職年金制度を採用しております。 また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。</p>	<p>1 採用している退職給付制度の概要 同左</p>																												
<p>2 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">4,971百万円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td style="text-align: right;">3,715百万円</td> </tr> <tr> <td>未積立退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">1,255百万円</td> </tr> <tr> <td>未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">463百万円</td> </tr> <tr> <td>連結貸借対照表計上額純額</td> <td style="text-align: right;">792百万円</td> </tr> <tr> <td>前払年金費用</td> <td style="text-align: right;">781百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">1,574百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 一部の子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p>	退職給付債務	4,971百万円	年金資産	3,715百万円	未積立退職給付債務	1,255百万円	未認識数理計算上の差異	463百万円	連結貸借対照表計上額純額	792百万円	前払年金費用	781百万円	退職給付引当金	1,574百万円	<p>2 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">4,998百万円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td style="text-align: right;">4,164百万円</td> </tr> <tr> <td>未積立退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">834百万円</td> </tr> <tr> <td>未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">186百万円</td> </tr> <tr> <td>連結貸借対照表計上額純額</td> <td style="text-align: right;">648百万円</td> </tr> <tr> <td>前払年金費用</td> <td style="text-align: right;">893百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">1,541百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 一部の子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p>	退職給付債務	4,998百万円	年金資産	4,164百万円	未積立退職給付債務	834百万円	未認識数理計算上の差異	186百万円	連結貸借対照表計上額純額	648百万円	前払年金費用	893百万円	退職給付引当金	1,541百万円
退職給付債務	4,971百万円																												
年金資産	3,715百万円																												
未積立退職給付債務	1,255百万円																												
未認識数理計算上の差異	463百万円																												
連結貸借対照表計上額純額	792百万円																												
前払年金費用	781百万円																												
退職給付引当金	1,574百万円																												
退職給付債務	4,998百万円																												
年金資産	4,164百万円																												
未積立退職給付債務	834百万円																												
未認識数理計算上の差異	186百万円																												
連結貸借対照表計上額純額	648百万円																												
前払年金費用	893百万円																												
退職給付引当金	1,541百万円																												
<p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">勤務費用</td> <td style="text-align: right;">286百万円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td style="text-align: right;">95百万円</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益</td> <td style="text-align: right;">43百万円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">31百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">371百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 上記以外に割増退職金等が13百万円あります。</p>	勤務費用	286百万円	利息費用	95百万円	期待運用収益	43百万円	数理計算上の差異の費用処理額	31百万円	退職給付費用	371百万円	<p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">勤務費用</td> <td style="text-align: right;">283百万円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td style="text-align: right;">96百万円</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益</td> <td style="text-align: right;">42百万円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">58百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">395百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 上記以外に割増退職金等が26百万円あります。</p>	勤務費用	283百万円	利息費用	96百万円	期待運用収益	42百万円	数理計算上の差異の費用処理額	58百万円	退職給付費用	395百万円								
勤務費用	286百万円																												
利息費用	95百万円																												
期待運用収益	43百万円																												
数理計算上の差異の費用処理額	31百万円																												
退職給付費用	371百万円																												
勤務費用	283百万円																												
利息費用	96百万円																												
期待運用収益	42百万円																												
数理計算上の差異の費用処理額	58百万円																												
退職給付費用	395百万円																												
<p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付見込額の期間配分方法</td> <td style="text-align: right;">期間定額基準</td> </tr> <tr> <td>割引率</td> <td style="text-align: right;">2.0%</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益率</td> <td style="text-align: right;">1.15%</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の処理年数</td> <td style="text-align: right;">10年</td> </tr> </table> <p>(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌連結会計年度から費用処理しております。)</p>	退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	割引率	2.0%	期待運用収益率	1.15%	数理計算上の差異の処理年数	10年	<p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付見込額の期間配分方法</td> <td style="text-align: right;">期間定額基準</td> </tr> <tr> <td>割引率</td> <td style="text-align: right;">2.0%</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益率</td> <td style="text-align: right;">1.15%</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の処理年数</td> <td style="text-align: right;">10年</td> </tr> </table> <p>(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌連結会計年度から費用処理しております。)</p>	退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	割引率	2.0%	期待運用収益率	1.15%	数理計算上の差異の処理年数	10年												
退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準																												
割引率	2.0%																												
期待運用収益率	1.15%																												
数理計算上の差異の処理年数	10年																												
退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準																												
割引率	2.0%																												
期待運用収益率	1.15%																												
数理計算上の差異の処理年数	10年																												

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)																																																																																		
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">2,707百万円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">822百万円</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">810百万円</td></tr> <tr><td>たな卸資産の未実現利益</td><td style="text-align: right;">633百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">460百万円</td></tr> <tr><td>関係会社出資金評価損</td><td style="text-align: right;">364百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">306百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">272百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">260百万円</td></tr> <tr><td>試験研究費税額控除</td><td style="text-align: right;">245百万円</td></tr> <tr><td>債務保証損失引当金</td><td style="text-align: right;">163百万円</td></tr> <tr><td>たな卸資産評価損</td><td style="text-align: right;">116百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">173百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">7,337百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">1,529百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,807百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>債権債務消去により減額修正された貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">1,103百万円</td></tr> <tr><td>未収事業税</td><td style="text-align: right;">157百万円</td></tr> <tr><td>特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">20百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">20百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,301百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">4,506百万円</td></tr> </table>	貸倒引当金	2,707百万円	その他有価証券評価差額金	822百万円	繰越欠損金	810百万円	たな卸資産の未実現利益	633百万円	役員退職慰労引当金	460百万円	関係会社出資金評価損	364百万円	減損損失	306百万円	賞与引当金	272百万円	退職給付引当金	260百万円	試験研究費税額控除	245百万円	債務保証損失引当金	163百万円	たな卸資産評価損	116百万円	その他	173百万円	繰延税金資産小計	7,337百万円	評価性引当額	1,529百万円	繰延税金資産合計	5,807百万円	債権債務消去により減額修正された貸倒引当金	1,103百万円	未収事業税	157百万円	特別償却準備金	20百万円	その他	20百万円	繰延税金負債合計	1,301百万円	繰延税金資産の純額	4,506百万円	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">1,999百万円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">721百万円</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">522百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">463百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">329百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">267百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">224百万円</td></tr> <tr><td>試験研究費税額控除</td><td style="text-align: right;">208百万円</td></tr> <tr><td>たな卸資産の未実現利益</td><td style="text-align: right;">196百万円</td></tr> <tr><td>債務保証損失引当金</td><td style="text-align: right;">164百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">243百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,341百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">856百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,484百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>債権債務消去により減額修正された貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">421百万円</td></tr> <tr><td>特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">14百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">28百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">465百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">4,019百万円</td></tr> </table>	貸倒引当金	1,999百万円	その他有価証券評価差額金	721百万円	繰越欠損金	522百万円	役員退職慰労引当金	463百万円	減損損失	329百万円	賞与引当金	267百万円	退職給付引当金	224百万円	試験研究費税額控除	208百万円	たな卸資産の未実現利益	196百万円	債務保証損失引当金	164百万円	その他	243百万円	繰延税金資産小計	5,341百万円	評価性引当額	856百万円	繰延税金資産合計	4,484百万円	債権債務消去により減額修正された貸倒引当金	421百万円	特別償却準備金	14百万円	その他	28百万円	繰延税金負債合計	465百万円	繰延税金資産の純額	4,019百万円
貸倒引当金	2,707百万円																																																																																		
その他有価証券評価差額金	822百万円																																																																																		
繰越欠損金	810百万円																																																																																		
たな卸資産の未実現利益	633百万円																																																																																		
役員退職慰労引当金	460百万円																																																																																		
関係会社出資金評価損	364百万円																																																																																		
減損損失	306百万円																																																																																		
賞与引当金	272百万円																																																																																		
退職給付引当金	260百万円																																																																																		
試験研究費税額控除	245百万円																																																																																		
債務保証損失引当金	163百万円																																																																																		
たな卸資産評価損	116百万円																																																																																		
その他	173百万円																																																																																		
繰延税金資産小計	7,337百万円																																																																																		
評価性引当額	1,529百万円																																																																																		
繰延税金資産合計	5,807百万円																																																																																		
債権債務消去により減額修正された貸倒引当金	1,103百万円																																																																																		
未収事業税	157百万円																																																																																		
特別償却準備金	20百万円																																																																																		
その他	20百万円																																																																																		
繰延税金負債合計	1,301百万円																																																																																		
繰延税金資産の純額	4,506百万円																																																																																		
貸倒引当金	1,999百万円																																																																																		
その他有価証券評価差額金	721百万円																																																																																		
繰越欠損金	522百万円																																																																																		
役員退職慰労引当金	463百万円																																																																																		
減損損失	329百万円																																																																																		
賞与引当金	267百万円																																																																																		
退職給付引当金	224百万円																																																																																		
試験研究費税額控除	208百万円																																																																																		
たな卸資産の未実現利益	196百万円																																																																																		
債務保証損失引当金	164百万円																																																																																		
その他	243百万円																																																																																		
繰延税金資産小計	5,341百万円																																																																																		
評価性引当額	856百万円																																																																																		
繰延税金資産合計	4,484百万円																																																																																		
債権債務消去により減額修正された貸倒引当金	421百万円																																																																																		
特別償却準備金	14百万円																																																																																		
その他	28百万円																																																																																		
繰延税金負債合計	465百万円																																																																																		
繰延税金資産の純額	4,019百万円																																																																																		
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の百分の五以下であるため注記を省略しております。</p>	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目の内訳</p> <p>税金等調整前当期純損失を計上しているため、記載を省略しております。</p>																																																																																		

(企業結合等関係)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

共通支配下の取引等

1 結合当事企業の名称及びその事業の内容、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

名称 当社の連結子会社である(株)ニットマック

事業の内容 繊維機械の部品加工他

(2) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とする吸収合併方式

(3) 結合後企業の名称

結合後企業の名称に変更はありません。

(4) 取引の目的を含む取引の概要

当社グループの生産管理業務ならびに経営管理業務を一元化することにより、経営の効率化を図るため、当社製品の部品加工を行っている(株)ニットマックを平成22年3月1日を合併期日として吸収合併することといたしました。

2 実施した会計処理の概要

「企業結合に係る会計基準」(企業会計審議会 平成15年10月31日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成19年11月15日公表分)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(賃貸等不動産関係)

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

該当事項はありません。



(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

	横編機事業 (百万円)	デザイン システム 関連事業 (百万円)	手袋靴下 編機事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	41,568	1,550	1,133	4,717	48,970		48,970
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	41,568	1,550	1,133	4,717	48,970		48,970
営業費用	27,679	1,549	934	5,036	35,199	5,242	40,441
営業利益又は営業損失( )	13,889	1	198	318	13,770	(5,242)	8,528
資産、減価償却費、 減損損失及び 資本的支出							
資産	76,560	2,119	851	7,825	87,357	32,420	119,777
減価償却費	1,482	55	28	273	1,840	517	2,358
減損損失				246	246		246
資本的支出	2,848	55	40	420	3,364	782	4,147

(注) 1 事業区分は、売上集計区分によっております。

2 各事業の主要な製品等

- (1) 横編機事業 .....コンピュータ横編機、セミジャカード横編機  
(2) デザインシステム関連事業.....コンピュータデザインシステム、ニットCADシステム  
アパレルCAD/CAMシステム  
(3) 手袋靴下編機事業 .....シームレス手袋・靴下編機  
(4) その他事業 .....編機・デザインシステム用部品、ニット製品製造卸売業  
修理、保守、ホテル業

3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、5,242百万円であり、これは提出会社の総務部門等管理部門及び開発部門に係る費用であります。

4 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は、32,420百万円であり、その主なものは、余資運用資金(現金預金及び有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

5 減価償却費及び資本的支出には長期前払費用とその償却額を含めております。

6 会計処理方法の変更

重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、在外子会社等の収益及び費用については、従来、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当連結会計年度より、期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更いたしました。

この結果、従来の方法に比べ、横編機事業の売上高は2,616百万円、営業利益は1,550百万円、デザインシステム関連事業の売上高は55百万円、営業利益は19百万円、手袋靴下編機事業の売上高は38百万円、営業利益は21百万円、その他事業の売上高は332百万円、営業利益は17百万円、それぞれ多く計上されています。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

	横編機事業 (百万円)	デザイン システム 関連事業 (百万円)	手袋靴下 編機事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	31,585	1,255	249	3,783	36,874		36,874
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	31,585	1,255	249	3,783	36,874		36,874
営業費用	25,584	1,348	271	4,550	31,754	4,468	36,222
営業利益又は営業損失( )	6,001	93	21	767	5,119	(4,468)	651
資産、減価償却費、 減損損失及び 資本的支出							
資産	66,688	1,945	318	6,367	75,320	34,742	110,062
減価償却費	1,282	42	9	231	1,564	598	2,163
減損損失						79	79
資本的支出	1,071	24	3	230	1,329	823	2,153

(注) 1 事業区分は、売上集計区分によっております。

2 各事業の主要な製品等

(1) 横編機事業 .....コンピュータ横編機、セミジャカード横編機

(2) デザインシステム関連事業.....コンピュータデザインシステム、ニットCADシステム  
アパレルCAD/CAMシステム

(3) 手袋靴下編機事業 .....シームレス手袋・靴下編機

(4) その他事業 .....編機・デザインシステム用部品、ニット製品製造卸売業  
修理、保守、ホテル業

3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、4,468百万円であり、これは提出会社の総務部門等管理部門及び開発部門に係る費用であります。

4 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は、34,742百万円であり、その主なものは、余資運用資金(現金預金及び有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

5 減価償却費及び資本的支出には長期前払費用とその償却額を含めております。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

	日本 (百万円)	東南アジア (百万円)	欧州 (百万円)	北米 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	11,680	27,021	8,987	1,280	48,970		48,970
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	28,791	53	225	3	29,073	(29,073)	
計	40,471	27,075	9,212	1,284	78,043	(29,073)	48,970
営業費用	29,588	24,752	9,130	1,993	65,465	(25,023)	40,441
営業利益又は営業損失( )	10,882	2,322	82	708	12,578	(4,050)	8,528
資産	75,158	23,594	17,234	1,173	117,161	2,616	119,777

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。  
2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域  
(1) 欧州 ……英国・イタリア・スペイン  
(2) 東南アジア ……中国  
(3) 北米 ……米国  
3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、5,242百万円であり、これは提出会社の総務部門等管理部門及び開発部門に係る費用であります。  
4 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は32,420百万円であり、その主なものは余剰運用資金、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。  
5 会計処理方法の変更  
重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準  
「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、在外子会社等の収益及び費用については、従来、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当連結会計年度より、期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更いたしました。  
この結果、従来の方法に比べ、東南アジアの売上高は1,339百万円、営業利益は165百万円、欧州の売上高は1,564百万円、営業利益は61百万円それぞれ多く計上され、北米の売上高は149百万円、営業損失は88百万円多く計上され、消去又は全社の売上高は10百万円少なく、営業利益は1,470百万円多く計上されています。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

	日本 (百万円)	東南アジア (百万円)	欧州 (百万円)	北米 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	12,487	16,774	7,099	513	36,874		36,874
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	17,900	394	0	43	18,339	(18,339)	
計	30,387	17,169	7,099	556	55,213	(18,339)	36,874
営業費用	24,435	16,233	7,625	1,040	49,335	(13,112)	36,222
営業利益又は営業損失( )	5,952	935	525	484	5,877	(5,226)	651
資産	67,739	20,823	14,465	553	103,581	6,481	110,062

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。  
2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域  
(1) 欧州 ……英国・イタリア・スペイン  
(2) 東南アジア ……中国  
(3) 北米 ……米国  
3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、4,468百万円であり、これは提出会社の総務部門等管理部門及び開発部門に係る費用であります。  
4 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は34,742百万円であり、その主なものは余剰運用資金、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

【海外売上高】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

	欧州	東南アジア	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	9,083	31,614	3,862	44,560
連結売上高(百万円)				48,970
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	18.5	64.6	7.9	91.0

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州 ……………イタリア・英国

(2) 東南アジア ……………中国・韓国

(3) その他の地域……………ブラジル・米国・トルコ・シリア

3 海外売上高は、提出会社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

4 会計処理方法の変更

重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、在外子会社等の収益及び費用については、従来、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当連結会計年度より、期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更いたしました。

この結果、従来の方法に比べ、欧州の売上高は1,553百万円、東南アジアの売上高は1,339百万円、その他の地域の売上高は149百万円それぞれ多く計上しております。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

	欧州	東南アジア	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	7,175	23,639	2,959	33,774
連結売上高(百万円)				36,874
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	19.5	64.1	8.0	91.6

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州 ……………イタリア・英国

(2) 東南アジア ……………中国・韓国

(3) その他の地域……………ブラジル・米国・トルコ・シリア

3 海外売上高は、提出会社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

(追加情報)

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」(企業会計基準第11号 平成18年10月17日)及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日)を適用しております。この結果、従来の開示対象範囲に加えて、連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引が開示対象に追加されております。

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を有している会社等	和島興産(株)	和歌山県 和歌山市	2,976	不動産管理 賃貸業 保険代理業 ニット製品の製造販売	被所有 直接 2.46%	当社の顧客	繊維機械及び部品の販売	33	売掛金	21
							建物の賃借	85	保証金	35
							広告宣伝用物品の購入	24	未払金	0

(注) 上記金額のうち、取引金額には消費税等を含まず、期末残高については消費税等を含んで表示しております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 和島興産(株)は、当社代表取締役社長 島 正博、常務取締役 島 三博及びその近親者が議決権の100%を直接保有しております。
- 2 和島興産(株)に対する販売条件につきましては、市場価格・総原価を勘案し、他の顧客と同様に決定しております。
- 3 建物の賃借については、近隣の取引実勢に基づいて交渉の上、賃借料金額を決定しております。
- 4 和島興産(株)からの物品の購入については一般取引と同様に決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の重要な子会社の役員等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
重要な子会社の役員	Lam Kam Chuen	中国 香港		島精榮榮有限公司の前取締役		島精榮榮有限公司の前取締役	自己株式(島精榮榮有限公司)の取得	4,613		
重要な子会社の役員及びその近親者が議決権の過半数を有している会社等	島精貿易(上海)有限公司	中国 上海市	(千中国元) 2,483	機械販売業		島精榮榮有限公司の販売代理店	機械の仕入	75	買掛金	
							機械の販売		売掛金	396
	東莞市大朗 新島針織機械経営部	中国 東莞市	(千中国元) 100	繊維機械のメンテナンス業		島精榮榮有限公司の業務委託先	繊維機械のアフターサービス	53	未払金	

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 Lam Kam Chuen氏は平成20年10月30日付で島精榮榮有限公司及び島精榮榮(上海)貿易有限公司の取締役を退任したため、取引金額については平成20年4月1日から平成20年10月30日までのものを記載しております。
- 2 自己株式の取得についてはLam Kam Chuen氏と島精榮榮有限公司との間で協議の上、平成20年10月30日付で同社と「自己株式買戻し契約」を締結し、取引金額を決定しております。

- 3 島精貿易（上海）有限公司、東莞市大朗新島針織機械経営部についてはいずれも Lam Kam Chuen氏が議決権の過半数を保有しておりますが、平成20年10月30日で関連当事者に該当しなくなったため、取引金額については平成20年4月1日から平成20年10月30日までの金額を、期末残高については平成20年10月30日時点のものを記載しております。
- 4 島精貿易（上海）有限公司との機械の仕入販売取引については、一般の取引条件と同様に決定しております。
- 5 東莞市大朗新島針織機械経営部への機械のアフターサービス委託業務については、一般の取引条件と同様に決定しております。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を有している会社等	和島興産(株)	和歌山県 和歌山市	2,976	不動産管理 賃貸業 保険代理業 ニット製品の 製造販売	被所有 直接 2.46%	当社の顧客	繊維機械及び部品の販売	19	売掛金	0
							ニット製品の販売	9	未収入金	6
							建物の賃借	118	保証金	36
							広告宣伝用物品の購入	16	未払金	2

(注) 上記金額のうち、取引金額には消費税等を含まず、期末残高については消費税等を含んで表示しております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 和島興産(株)は、当社常務取締役 島 三博及びその近親者が議決権の100%を直接保有しております。
- 2 和島興産(株)に対する販売条件につきましては、市場価格・総原価を勘案し、他の顧客と同様に決定しております。
- 3 建物の賃借については、近隣の取引実勢に基づいて交渉の上、賃借料金額を決定しております。
- 4 和島興産(株)からの物品の購入については一般取引と同様に決定しております。

## (1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	2,633.55円	1株当たり純資産額	2,529.67円
1株当たり当期純利益金額	49.88円	1株当たり当期純損失金額( )	54.52円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	48.56円	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( )及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額( )		
当期純利益又は当期純損失( )(百万円)	1,765	1,885
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失( )(百万円)	1,765	1,885
普通株式の期中平均株式数(千株)	35,393	34,577
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)	2	
(うち支払利息(税額相当額控除後))	(2)	
普通株式増加数(千株)	919	
(うち新株予約権付社債)	(919)	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要		2010年11月26日満期円貨建転換社債型新株予約権付社債(新株予約権の数388個)。 なお、新株予約権の概要は「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況(2) 新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

## (重要な後発事象)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

ストックオプションについて

当社は、平成22年6月29日開催の第49回定時株主総会において、会社法第236条、第238条および第239条の規定に基づき、当社および当社子会社の取締役および従業員に対して、ストックオプションとして新株予約権を発行することならびに新株予約権の募集事項の決定を当社取締役会に委任することを決議いたしました。

ストックオプションの内容については「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況(9) ストックオプション制度の内容」に記載しております。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
当社	2010年11月26日満期円 貨建転換社債型新株予 約権付社債	平成18年11月 27日	2,805	1,941 (1,941)		無	平成22年11月 26日

(注) 1 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2 新株予約権付社債の内容

発行すべき 株式の内容	新株予約権 の発行価額	株式の 発行価格 (円)	発行価額の 総額 (百万円)	新株予約権の行使 により発行した 株式の発行価額 の総額(百万円)	新株予約権 の付与割合 (%)	新株予約権 の行使期間	代用払込に関 する事項
普通株式	無償	3,060	10,050		100	自平成18年 12月11日 至平成22年 11月12日	(注)

(注) 本新株予約権付社債の社債権者が本新株予約権を行使したときは本社債の全額の償還に代えて当該本新株予約権の行使に際して払込をなすべき額の全額の払込とする請求があったものとみなす。

3 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
1,941				

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	6,498	1,839	0.42	
1年以内に返済予定の長期借入金	3,000	1,000	1.45	
1年以内に返済予定のリース債務	140	167	1.79	
長期借入金(1年以内に返済予定 のものを除く。)	1,000	3,000	0.82	平成24年
リース債務(1年以内に返済予定 のものを除く。)	799	794	1.79	平成23年～平成28年
その他有利子負債				
合計	11,438	6,801		

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期中平均残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金		3,000		
リース債務	170	173	173	174



(2) 【その他】

当連結会計年度における各四半期連結会計期間に係る売上高等

	第1四半期 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	第2四半期 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	第3四半期 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	第4四半期 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
売上高 (百万円)	12,094	6,897	5,816	12,066
税金等調整前四半期 純利益金額又は税金 等調整前四半期純損 失金額 ( ) (百万円)	1,464	2,435	232	160
四半期純利益金額又 は四半期純損失金額 ( ) (百万円)	885	1,816	152	1,107
1株当たり四半期純 利益金額又は 1株当たり四半期純 損失金額 ( ) (円)	25.62	52.54	4.42	32.03

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,656	5,405
受取手形	1 22,443	1 14,396
売掛金	1 18,509	1 25,013
有価証券	402	1,400
製品	4,208	5,310
原材料	3,135	3,753
仕掛品	489	803
貯蔵品	297	298
前払費用	19	18
繰延税金資産	1,641	2,009
短期貸付金	4 1,428	4 947
未収入金	2,115	73
その他	410	478
貸倒引当金	3,220	2,866
流動資産合計	57,539	57,042
固定資産		
有形固定資産		
建物	16,690	17,719
減価償却累計額	12,193	12,740
建物(純額)	4,497	4,979
構築物	2,604	2,712
減価償却累計額	2,068	2,169
構築物(純額)	535	543
機械及び装置	2,328	2,416
減価償却累計額	1,616	1,799
機械及び装置(純額)	712	617
車両運搬具	111	111
減価償却累計額	94	99
車両運搬具(純額)	16	11
工具、器具及び備品	5,956	6,127
減価償却累計額	4,735	5,049
工具、器具及び備品(純額)	1,220	1,077
土地	2 9,744	2 10,272
リース資産	561	655
減価償却累計額	38	131
リース資産(純額)	522	524
建設仮勘定	305	28
有形固定資産合計	17,555	18,053

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<b>無形固定資産</b>		
借地権	3	3
ソフトウェア	88	74
施設利用権	15	20
電話加入権	14	15
無形固定資産合計	121	113
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	6,182	7,219
関係会社株式	12,408	9,529
出資金	3	3
関係会社出資金	871	71
関係会社長期貸付金	1,930	607
破産更生債権等	2,536	2,490
長期前払費用	72	59
敷金及び保証金	59	63
繰延税金資産	3,207	2,196
長期性預金	1,500	1,500
その他	1,550	1,542
貸倒引当金	3,840	2,401
投資その他の資産合計	26,481	22,881
<b>固定資産合計</b>	<b>44,158</b>	<b>41,048</b>
<b>資産合計</b>	<b>101,698</b>	<b>98,091</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	3,287	5,351
短期借入金	3,300	300
1年内返済予定の長期借入金	3,000	1,000
1年内償還予定の新株予約権付社債		1,941
リース債務	81	96
未払金	827	963
未払費用	206	210
未払法人税等	9	61
前受金	24	107
預り金	129	107
前受収益	566	599
賞与引当金	557	580
債務保証損失引当金	377	401
流動負債合計	12,368	11,721
<b>固定負債</b>		
新株予約権付社債	2,805	-

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
長期借入金	1,000	3,000
リース債務	471	462
再評価に係る繰延税金負債	2 32	2 32
退職給付引当金	1,247	1,317
役員退職慰労引当金	1,094	1,112
固定負債合計	6,652	5,925
負債合計	19,021	17,646
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,859	14,859
資本剰余金		
資本準備金	21,724	21,724
資本剰余金合計	21,724	21,724
利益剰余金		
利益準備金	2,124	2,124
その他利益剰余金		
研究開発積立金	12,839	12,839
特別償却準備金	20	14
固定資産圧縮積立金	-	11
別途積立金	40,222	40,222
繰越利益剰余金	5,902	3,521
利益剰余金合計	61,109	58,733
自己株式	6,394	6,398
株主資本合計	91,298	88,918
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,187	1,041
土地再評価差額金	2 7,433	2 7,433
評価・換算差額等合計	8,621	8,474
純資産合計	82,677	80,444
負債純資産合計	101,698	98,091

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)
売上高	6 39,486	6 29,572
売上原価		
製品期首たな卸高	5,595	4,208
当期製品製造原価	22,780	20,141
合計	28,376	24,349
他勘定振替高	1 235	1 79
製品期末たな卸高	4,208	5,310
売上原価合計	23,932	18,960
売上総利益	15,553	10,612
販売費及び一般管理費		
販売手数料	246	541
運賃及び荷造費	1,134	948
広告宣伝費	534	345
無償修理費	382	291
貸倒引当金繰入額	89	-
貸倒損失	-	34
債務保証損失引当金繰入額	-	40
役員報酬	144	114
給料及び手当	1,330	1,360
賞与	291	234
賞与引当金繰入額	139	147
退職給付費用	66	77
役員退職慰労引当金繰入額	42	41
支払手数料	552	440
減価償却費	600	539
研究開発費	2 2,651	2 2,325
その他	1,872	1,607
販売費及び一般管理費合計	10,078	9,091
営業利益	5,474	1,521
営業外収益		
受取利息	288	6 479
有価証券利息	13	7
受取配当金	6 551	159
受取賃貸料	6 194	6 200
雑収入	98	251
営業外収益合計	1,147	1,098

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>営業外費用</b>		
支払利息	71	60
手形売却損	22	-
売上割引	41	3
固定資産賃貸費用	65	101
貸倒引当金繰入額	922	111
為替差損	4,059	763
雑損失	26	30
<b>営業外費用合計</b>	<b>5,207</b>	<b>1,070</b>
経常利益	1,414	1,548
<b>特別利益</b>		
債務保証損失引当金戻入益	42	-
貸倒引当金戻入益	-	57
投資有価証券売却益	-	204
抱合せ株式消滅差益	-	1,475
<b>特別利益合計</b>	<b>42</b>	<b>1,738</b>
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	0	0
固定資産廃棄損	27	23
減損損失	246	16
関係会社株式評価損	28	3,544
関係会社出資金評価損	325	119
投資有価証券評価損	317	26
その他	-	158
<b>特別損失合計</b>	<b>945</b>	<b>3,888</b>
税引前当期純利益又は税引前当期純損失 ( )	512	601
法人税、住民税及び事業税	5	17
法人税等調整額	267	558
<b>法人税等合計</b>	<b>272</b>	<b>575</b>
当期純利益又は当期純損失 ( )	240	1,176

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)		当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費		14,793	65.8	13,447	65.8
労務費		4,274	19.0	3,871	18.9
経費		3,402	15.2	3,128	15.3
外注加工費		1,465		1,400	
消耗工具費		239		200	
減価償却費		644		644	
賃借料		463		414	
その他		590		468	
当期総製造費用		22,471	100.0	20,448	100.0
仕掛品期首たな卸高		822		489	
合併による仕掛品受入高				25	
計		23,293		20,962	
他勘定振替高	1	23		17	
仕掛品期末たな卸高		489		803	
当期製品製造原価		22,780		20,141	

(注)

前事業年度	当事業年度
1 他勘定振替高は、メンテナンス用部品(自社使用)への振替高であります。	1 同左

(原価計算の方法)

原価計算の方法は、製品別総合原価計算によっております。

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	14,859	14,859
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	14,859	14,859
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
前期末残高	21,724	21,724
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	21,724	21,724
<b>その他資本剰余金</b>		
前期末残高	672	-
当期変動額		
自己株式の処分	66	-
自己株式の消却	606	-
当期変動額合計	672	-
当期末残高	-	-
<b>資本剰余金合計</b>		
前期末残高	22,396	21,724
当期変動額		
自己株式の処分	66	-
自己株式の消却	606	-
当期変動額合計	672	-
当期末残高	21,724	21,724
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
前期末残高	2,124	2,124
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,124	2,124
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>研究開発積立金</b>		
前期末残高	12,839	12,839
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	12,839	12,839
<b>特別償却準備金</b>		
前期末残高	28	20
当期変動額		
特別償却準備金の取崩	8	5
当期変動額合計	8	5
当期末残高	20	14



	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>固定資産圧縮積立金</b>		
前期末残高	-	-
当期変動額		
合併による増加	-	11
固定資産圧縮積立金の取崩	-	0
当期変動額合計	-	11
当期末残高	-	11
<b>別途積立金</b>		
前期末残高	40,222	40,222
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	40,222	40,222
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	10,831	5,902
当期変動額		
特別償却準備金の取崩	8	5
剰余金の配当	1,970	1,210
当期純利益	240	1,176
自己株式の取得	-	0
自己株式の処分	0	-
自己株式の消却	3,247	-
土地再評価差額金の取崩	40	-
固定資産圧縮積立金の取崩	-	0
当期変動額合計	4,929	2,380
当期末残高	5,902	3,521
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	66,047	61,109
当期変動額		
特別償却準備金の取崩	-	-
剰余金の配当	1,970	1,210
当期純利益	240	1,176
自己株式の取得	-	0
自己株式の処分	0	-
自己株式の消却	3,247	-
土地再評価差額金の取崩	40	-
合併による増加	-	11
固定資産圧縮積立金の取崩	-	-
当期変動額合計	4,937	2,375
当期末残高	61,109	58,733
<b>自己株式</b>		
前期末残高	5,322	6,394
当期変動額		
自己株式の取得	5,096	3
自己株式の処分	170	0
自己株式の消却	3,854	-

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
当期変動額合計	1,071	3
当期末残高	6,394	6,398
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	97,980	91,298
当期変動額		
剰余金の配当	1,970	1,210
当期純利益	240	1,176
自己株式の取得	5,096	3
自己株式の処分	102	0
土地再評価差額金の取崩	40	-
合併による増加	-	11
当期変動額合計	6,682	2,379
当期末残高	91,298	88,918
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>  その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	560	1,187
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	626	146
当期変動額合計	626	146
当期末残高	1,187	1,041
<b>  土地再評価差額金</b>		
前期末残高	7,392	7,433
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	40	-
当期変動額合計	40	-
当期末残高	7,433	7,433
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	7,953	8,621
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	667	146
当期変動額合計	667	146
当期末残高	8,621	8,474
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	90,027	82,677
当期変動額		
剰余金の配当	1,970	1,210
当期純利益	240	1,176
自己株式の取得	5,096	3
自己株式の処分	102	0
土地再評価差額金の取崩	40	-
合併による増加	-	11
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	667	146
当期変動額合計	7,350	2,232
当期末残高	82,677	80,444

【重要な会計方針】

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)						
1 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 満期保有目的の債券 償却原価法(定額法)を採用しております。</p> <p>(2) 子会社株式 総平均法に基づく原価法を採用しております。</p> <p>(3) その他有価証券 時価のあるもの 決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。</p> <p>時価のないもの 総平均法に基づく原価法を採用しております。</p>	<p>(1) 満期保有目的の債券 同左</p> <p>(2) 子会社株式 同左</p> <p>(3) その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p>						
2 デリバティブの評価基準及び評価方法	時価法を採用しております。	同左						
3 たな卸資産の評価基準及び評価方法	<p>評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。</p> <p>(1) 製品・原材料及び仕掛品 移動平均法を採用しております。</p> <p>(2) 貯蔵品 先入先出法を採用しております。</p>	<p>評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。</p> <p>(1) 製品・原材料及び仕掛品 同左</p> <p>(2) 貯蔵品 同左</p>						
4 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法を採用しております。 ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td>3～60年</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び 車両運搬具</td> <td>2～12年</td> </tr> <tr> <td>工具器具備品</td> <td>2～20年</td> </tr> </table> <p>(追加情報) 当社の機械装置については、従来、耐用年数を4～12年としておりましたが、当事業年度より2～12年に変更しております。 これは、平成20年度の税制改正を契機に機械装置の利用状況を勘案した結果、耐用年数を見直したことによるものであります。 なお、当該変更に伴う影響は軽微であります。</p>	建物及び構築物	3～60年	機械装置及び 車両運搬具	2～12年	工具器具備品	2～20年	<p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 同左</p>
建物及び構築物	3～60年							
機械装置及び 車両運搬具	2～12年							
工具器具備品	2～20年							

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
	<p>(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(3～5年)に基づいております。</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>(2) 無形固定資産 同左</p> <p>(3) リース資産 同左</p>
5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。	同左
6 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。</p> <p>(3) 債務保証損失引当金 当社製品を購入した顧客のリース会社及び提携金融機関に対する債務保証に係る損失に備えるため、発生可能性を個別に検討して算定した損失見込額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 債務保証損失引当金 同左</p> <p>(4) 退職給付引当金 同左</p> <p>(会計方針の変更) 当事業年度から「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 同左</p>

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
7 ヘッジ会計の方法	<p>ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。 なお、先物為替予約については振当処理を、金利スワップについては特例処理を採用しております。</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>1 ヘッジ手段 先物為替予約取引 通貨オプション取引 金利スワップ取引</p> <p>2 ヘッジ対象 外貨建金銭債権 借入金</p> <p>ヘッジ方針 社内規程に基づき、外貨建取引における為替変動リスク及び借入金の金利変動リスクをヘッジしております。取組時は、実需の範囲で行うことを原則とし、投機目的のための取引は行わない方針であります。</p> <p>ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ手段とヘッジ対象における通貨・期日等の重要な条件が同一であり、その後の為替相場及び金利相場の変動による相関関係は確保されているため、有効性の評価を省略しております。</p>	<p>ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>1 ヘッジ手段 先物為替予約取引 金利スワップ取引</p> <p>2 ヘッジ対象 同左</p> <p>ヘッジ方針 同左</p> <p>ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>
8 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>	<p>消費税等の会計処理 同左</p>

## 【会計方針の変更】

前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<p>(棚卸資産の評価に関する会計基準)</p> <p>当事業年度より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)を適用しております。</p> <p>これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。</p>	
<p>(リース取引に関する会計基準等)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>なお、リース取引会計基準の改正適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を採用しております。</p> <p>これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。</p>	

## 【表示方法の変更】

前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<p>(貸借対照表)</p> <p>1. 前事業年度において、流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「未収入金」(前事業年度83百万円)は資産の総額の100分の1超であるため、当事業年度より区分掲記しております。</p> <p>2. 前事業年度において、固定資産の「投資その他の資産」の「その他」に含めて表示しておりました「長期性預金」(前事業年度1,500百万円)は資産の総額の100分の1超であるため、当事業年度より区分掲記しております。</p>	

## 【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)		当事業年度 (平成22年3月31日)	
1 このうち関係会社に対する資産及び負債は次のとおりであります。		1 このうち関係会社に対する資産及び負債は次のとおりであります。	
科目	金額(百万円)	科目	金額(百万円)
受取手形	12,897	受取手形	5,644
売掛金	16,400	売掛金	21,804
買掛金	1,321	買掛金	1,897
2 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。		2 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に合理的な調整を行って算出しております。</li> <li>再評価を行った年月日 平成14年3月31日</li> <li>再評価を行った土地の当期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額 2,573百万円</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に合理的な調整を行って算出しております。</li> <li>再評価を行った年月日 平成14年3月31日</li> <li>再評価を行った土地の当期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額 2,877百万円</li> </ul>	
3 保証債務		3 保証債務	
被保証者	保証金額 (百万円)	内容	
TONGXIANG YISU	31	取引債務	
SHIMA SEIKI EUROPE LTD.	28	取引債務	
WUJIANG WEIDA	13	取引債務	
ZHANGJIAGANG QINNUOLI 他6件	43	取引債務	
計	115		
<p>この他、取引先(100社)に対する販売機械(所有権留保付)に係る購入資金ローンの保証額が、2,579百万円あります。</p> <p>また、リース利用により当社製品を使用する顧客(64社)のリース契約に関して、リース物件の引取を条件としたリース債務の保証残高が、500百万円あります。</p>		<p>取引先に対する債務の保証 販売機械購入資金ローン(84社) 2,090百万円 リース債務(67社) 292百万円 販売機械購入債務(4社) 14百万円</p> <p>関係会社の取引に対する債務の保証 東洋紡糸工業(株) 36百万円 SHIMA SEIKI EUROPE LTD. 28百万円</p>	
4 現先取引の担保として自由処分権のある有価証券を受け入れており、当事業年度末日の時価は998百万円であります。		4 現先取引の担保として自由処分権のある有価証券を受け入れており、当事業年度末日の時価は499百万円であります。	

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)		当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)																	
1 他勘定振替高の主なものは、有償支給によるものであります。		1 同左																	
2 一般管理費に含まれる研究開発費 2,651百万円		2 一般管理費に含まれる研究開発費 2,325百万円																	
3 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。		3 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目</th> <th>金額(百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>機械装置</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		科目	金額(百万円)	車両運搬具	0	機械装置	0	計	0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目</th> <th>金額(百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工具器具備品</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		科目	金額(百万円)	工具器具備品	0	計	0		
科目	金額(百万円)																		
車両運搬具	0																		
機械装置	0																		
計	0																		
科目	金額(百万円)																		
工具器具備品	0																		
計	0																		
4 固定資産廃棄損の内訳は次のとおりであります。		4 固定資産廃棄損の内訳は次のとおりであります。																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目</th> <th>金額(百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工具器具備品</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>機械装置他</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table>		科目	金額(百万円)	工具器具備品	11	機械装置他	15	計	27	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目</th> <th>金額(百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建物</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>工具器具備品他</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table>		科目	金額(百万円)	建物	17	工具器具備品他	6	計	23
科目	金額(百万円)																		
工具器具備品	11																		
機械装置他	15																		
計	27																		
科目	金額(百万円)																		
建物	17																		
工具器具備品他	6																		
計	23																		
5 当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。		5 当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>減損損失 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>和歌山県 白浜町</td> <td>賃貸資産</td> <td>土地、 建物</td> <td>246</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社は事業内容を資産グルーピングの基礎として横編機事業・デザインシステム関連事業・手袋靴下編機事業・その他事業及び各賃貸資産・遊休資産にグルーピングしております。</p> <p>上記資産は、帳簿価額と比較して市場価額が著しく低下しているため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（246百万円）として特別損失に計上しております。</p> <p>その内訳は土地79百万円、建物166百万円であります。</p> <p>なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、不動産鑑定評価等に基づき算定しております。</p>		場所	用途	種類	減損損失 (百万円)	和歌山県 白浜町	賃貸資産	土地、 建物	246	<table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>減損損失 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大阪府 岬町</td> <td>遊休資産</td> <td>土地</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社は事業内容を資産グルーピングの基礎として横編機事業・デザインシステム関連事業・手袋靴下編機事業・その他事業及び各賃貸資産・遊休資産にグルーピングしております。</p> <p>上記資産は、帳簿価額と比較して市場価額が著しく低下しているため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（16百万円）として特別損失に計上しております。</p> <p>なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、路線価による相続税評価額等を基礎として評価しております。</p>		場所	用途	種類	減損損失 (百万円)	大阪府 岬町	遊休資産	土地	16
場所	用途	種類	減損損失 (百万円)																
和歌山県 白浜町	賃貸資産	土地、 建物	246																
場所	用途	種類	減損損失 (百万円)																
大阪府 岬町	遊休資産	土地	16																
6 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。		6 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。																	
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>売上高</td> <td>28,788百万円</td> </tr> <tr> <td>受取賃貸料</td> <td>171百万円</td> </tr> <tr> <td>受取配当金</td> <td>484百万円</td> </tr> </tbody> </table>		売上高	28,788百万円	受取賃貸料	171百万円	受取配当金	484百万円	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>売上高</td> <td>18,302百万円</td> </tr> <tr> <td>受取利息</td> <td>272百万円</td> </tr> <tr> <td>受取賃貸料</td> <td>183百万円</td> </tr> </tbody> </table>		売上高	18,302百万円	受取利息	272百万円	受取賃貸料	183百万円				
売上高	28,788百万円																		
受取賃貸料	171百万円																		
受取配当金	484百万円																		
売上高	18,302百万円																		
受取利息	272百万円																		
受取賃貸料	183百万円																		



(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	1,052	2,003	1,033	2,021

- (注) 1 自己株式の増加2,003千株は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を行うための株式の取得による増加2,000千株及び単元未満株式の買取り請求による増加3千株によるものであります。
- 2 自己株式の減少1,033千株は、新株予約権付社債の株式転換請求による減少32千株、単元未満株式の売渡しによる減少1千株及び自己株式の消却による減少1,000千株であります。

当事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	2,021	1	0	2,023

- (注) 1 自己株式の増加1千株は単元未満株式の買取りによる増加であります。
- 2 自己株式の減少0千株は単元未満株式の売渡しによる減少であります。

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)																																																																
<p>ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 有形固定資産 横編機事業、デザインシステム関連事業、手袋靴下編機事業及びその他事業における生産設備等(機械及び装置他)であります。 リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「4.固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械及び装置</td> <td>2,451</td> <td>1,261</td> <td>1,190</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>121</td> <td>65</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,576</td> <td>1,329</td> <td>1,247</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額</p> <table> <tr> <td>1年以内</td> <td>369百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>887百万円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,257百万円</td> </tr> </table> <p>(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table> <tr> <td>支払リース料</td> <td>420百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td>410百万円</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td>10百万円</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>(5) 利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。</p>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	機械及び装置	2,451	1,261	1,190	工具、器具及び備品	121	65	55	車両運搬具	3	2	0	合計	2,576	1,329	1,247	1年以内	369百万円	1年超	887百万円	計	1,257百万円	支払リース料	420百万円	減価償却費相当額	410百万円	支払利息相当額	10百万円	<p>ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 有形固定資産 同左  リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械及び装置</td> <td>2,396</td> <td>1,499</td> <td>897</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>91</td> <td>60</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,492</td> <td>1,563</td> <td>928</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額</p> <table> <tr> <td>1年以内</td> <td>329百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>609百万円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>939百万円</td> </tr> </table> <p>(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table> <tr> <td>支払リース料</td> <td>401百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td>392百万円</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td>8百万円</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 同左</p> <p>(5) 利息相当額の算定方法 同左</p>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	機械及び装置	2,396	1,499	897	工具、器具及び備品	91	60	31	車両運搬具	3	3	0	合計	2,492	1,563	928	1年以内	329百万円	1年超	609百万円	計	939百万円	支払リース料	401百万円	減価償却費相当額	392百万円	支払利息相当額	8百万円
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																																																														
機械及び装置	2,451	1,261	1,190																																																														
工具、器具及び備品	121	65	55																																																														
車両運搬具	3	2	0																																																														
合計	2,576	1,329	1,247																																																														
1年以内	369百万円																																																																
1年超	887百万円																																																																
計	1,257百万円																																																																
支払リース料	420百万円																																																																
減価償却費相当額	410百万円																																																																
支払利息相当額	10百万円																																																																
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																																																														
機械及び装置	2,396	1,499	897																																																														
工具、器具及び備品	91	60	31																																																														
車両運搬具	3	3	0																																																														
合計	2,492	1,563	928																																																														
1年以内	329百万円																																																																
1年超	609百万円																																																																
計	939百万円																																																																
支払リース料	401百万円																																																																
減価償却費相当額	392百万円																																																																
支払利息相当額	8百万円																																																																

(有価証券関係)

前事業年度(平成21年3月31日)

子会社株式で時価のあるものはありません。

当事業年度(平成22年3月31日)

(追加情報)

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

子会社株式

子会社株式(貸借対照表計上額9,529百万円)は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから記載しておりません。

[次へ](#)

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)																																																																				
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">2,662百万円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">806百万円</td></tr> <tr><td>関係会社株式評価損</td><td style="text-align: right;">777百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">442百万円</td></tr> <tr><td>関係会社出資金評価損</td><td style="text-align: right;">364百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">257百万円</td></tr> <tr><td>試験研究費税額控除</td><td style="text-align: right;">245百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">243百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">225百万円</td></tr> <tr><td>債務保証損失引当金</td><td style="text-align: right;">152百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">188百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6,367百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">1,364百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,002百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未収事業税</td><td style="text-align: right;">139百万円</td></tr> <tr><td>特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">13百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">153百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額 <span style="float: right; border-top: 1px solid black;">4,849百万円</span></p>	貸倒引当金	2,662百万円	その他有価証券評価差額金	806百万円	関係会社株式評価損	777百万円	役員退職慰労引当金	442百万円	関係会社出資金評価損	364百万円	減損損失	257百万円	試験研究費税額控除	245百万円	退職給付引当金	243百万円	賞与引当金	225百万円	債務保証損失引当金	152百万円	その他	188百万円	繰延税金資産小計	6,367百万円	評価性引当額	1,364百万円	繰延税金資産合計	5,002百万円	未収事業税	139百万円	特別償却準備金	13百万円	繰延税金負債合計	153百万円	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>関係会社株式評価損</td><td style="text-align: right;">2,210百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">1,931百万円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">706百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">449百万円</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">435百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">258百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">234百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">224百万円</td></tr> <tr><td>試験研究費税額控除</td><td style="text-align: right;">208百万円</td></tr> <tr><td>債務保証損失引当金</td><td style="text-align: right;">162百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">161百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6,984百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">2,762百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,222百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">9百万円</td></tr> <tr><td>固定資産圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">7百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">17百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額 <span style="float: right; border-top: 1px solid black;">4,205百万円</span></p>	関係会社株式評価損	2,210百万円	貸倒引当金	1,931百万円	その他有価証券評価差額金	706百万円	役員退職慰労引当金	449百万円	繰越欠損金	435百万円	減損損失	258百万円	賞与引当金	234百万円	退職給付引当金	224百万円	試験研究費税額控除	208百万円	債務保証損失引当金	162百万円	その他	161百万円	繰延税金資産小計	6,984百万円	評価性引当額	2,762百万円	繰延税金資産合計	4,222百万円	特別償却準備金	9百万円	固定資産圧縮積立金	7百万円	繰延税金負債合計	17百万円
貸倒引当金	2,662百万円																																																																				
その他有価証券評価差額金	806百万円																																																																				
関係会社株式評価損	777百万円																																																																				
役員退職慰労引当金	442百万円																																																																				
関係会社出資金評価損	364百万円																																																																				
減損損失	257百万円																																																																				
試験研究費税額控除	245百万円																																																																				
退職給付引当金	243百万円																																																																				
賞与引当金	225百万円																																																																				
債務保証損失引当金	152百万円																																																																				
その他	188百万円																																																																				
繰延税金資産小計	6,367百万円																																																																				
評価性引当額	1,364百万円																																																																				
繰延税金資産合計	5,002百万円																																																																				
未収事業税	139百万円																																																																				
特別償却準備金	13百万円																																																																				
繰延税金負債合計	153百万円																																																																				
関係会社株式評価損	2,210百万円																																																																				
貸倒引当金	1,931百万円																																																																				
その他有価証券評価差額金	706百万円																																																																				
役員退職慰労引当金	449百万円																																																																				
繰越欠損金	435百万円																																																																				
減損損失	258百万円																																																																				
賞与引当金	234百万円																																																																				
退職給付引当金	224百万円																																																																				
試験研究費税額控除	208百万円																																																																				
債務保証損失引当金	162百万円																																																																				
その他	161百万円																																																																				
繰延税金資産小計	6,984百万円																																																																				
評価性引当額	2,762百万円																																																																				
繰延税金資産合計	4,222百万円																																																																				
特別償却準備金	9百万円																																																																				
固定資産圧縮積立金	7百万円																																																																				
繰延税金負債合計	17百万円																																																																				
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.43%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">5.70%</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">38.17%</td></tr> <tr><td>住民税均等割等</td><td style="text-align: right;">3.19%</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">43.00%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1.03%</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">53.12%</td></tr> </table>	法定実効税率	40.43%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	5.70%	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	38.17%	住民税均等割等	3.19%	評価性引当額	43.00%	その他	1.03%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	53.12%	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目の内訳</p> <p>税引前当期純損失を計上しているため、記載を省略しております。</p>																																																				
法定実効税率	40.43%																																																																				
(調整)																																																																					
交際費等永久に損金に算入されない項目	5.70%																																																																				
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	38.17%																																																																				
住民税均等割等	3.19%																																																																				
評価性引当額	43.00%																																																																				
その他	1.03%																																																																				
税効果会計適用後の法人税等の負担率	53.12%																																																																				

(企業結合等関係)

前事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

連結財務諸表の注記事項(企業結合等関係)における記載内容と同一であるため、記載していません。

## (1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	2,391.01円	1株当たり純資産額	2,326.55円
1株当たり当期純利益金額	6.79円	1株当たり当期純損失金額( )	34.03円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	6.56円	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( )及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

項目	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
	1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額( )			
当期純利益又は当期純損失( )(百万円)		240		1,176
普通株主に帰属しない金額(百万円)				
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失( )(百万円)		240		1,176
普通株式の期中平均株式数(千株)		35,393		34,577
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額				
当期純利益調整額(百万円)		2		
(うち支払利息(税額相当額控除後))		(2)		
普通株式増加数(千株)		919		
(うち新株予約権付社債)		(919)		
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要				2010年11月26日満期円貨建転換社債型新株予約権付社債(新株予約権の数388個)。なお、新株予約権の概要は「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

前事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

ストックオプションについて

当社は、平成22年6月29日開催の第49回定時株主総会において、会社法第236条、第238条および第239条の規定に基づき、当社および当社子会社の取締役および従業員に対して、ストックオプションとして新株予約権を発行することならびに新株予約権の募集事項の決定を当社取締役会に委任することを決議いたしました。

ストックオプションの内容については「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況(9)ストックオプション制度の内容」に記載しております。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	
投資 有価証券	その他 有価証券	(株)紀陽ホールディングス	8,400,000.000	1,079
		(株)池田泉州ホールディングス	4,524,734.000	769
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	103,000.000	318
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	530,000.000	259
		(株)T & Dホールディングス	49,800.000	110
		(株)大和証券グループ本社	200,000.000	98
		フジッコ(株)	57,499.000	61
		(株)テレビ和歌山	112,000.000	56
		(株)和歌山リサーチラボ	1,000.000	50
		関西国際空港(株)	920.000	46
	その他20銘柄	686,946.569	253	
	小計	14,665,899.569	3,102	
計		14,665,899.569	3,102	

【債券】

銘柄		券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)	
有価証券	満期保有 目的の債券	(割引商工債券)	400	399
	その他 有価証券	(MMF)	1,000	1,000
	小計		1,400	1,400
投資 有価証券	その他 有価証券	(ユーロ円建債券)	1,000	960
	小計		1,000	960
計		2,400	2,360	

## 【その他】

種類及び銘柄		投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (百万円)	
投資 有価証券	その他 有価証券	(証券投資信託受益証券)	3,642,076,358	3,053
		(投資事業有限責任組合への出資)	31	103
		小計	3,642,076,389	3,157
計		3,642,076,389	3,157	



## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	16,690	1,054	25	17,719	12,740	437	4,979
構築物	2,604	113	4	2,712	2,169	98	543
機械及び装置	2,328	234	146	2,416	1,799	209	617
車両運搬具	111	3	3	111	99	7	11
工具、器具 及び備品	5,956	378	207	6,127	5,049	485	1,077
土地	9,744	555	27 (16)	10,272			10,272
リース資産	561	94		655	131	81	524
建設仮勘定	305	497	774	28			28
有形固定資産計	38,302	2,931	1,189 (16)	40,044	21,990	1,321	18,053
無形固定資産							
借地権				3			3
ソフトウェア				191	117	37	74
施設利用権				33	13	1	20
電話加入権				15			15
無形固定資産計				243	130	38	113
長期前払費用	77	4	2	80	31	13	48
繰延資産							
繰延資産計							

(注) 1 無形固定資産の金額が資産総額の1%以下であるため「前期末残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

2 長期前払費用については、償却資産分のみを記載しております。

3 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

4 当期増加額には株式会社ニットマックを吸収合併したことによる増加分が含まれております。この増加分の資産種類ごとの内訳は建物448百万円、構築物30百万円、機械装置91百万円、車両運搬具0百万円、工具器具備品49百万円、土地417百万円、リース資産94百万円であります。

## 【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	7,060	1,736	1,849	1,679	5,267
賞与引当金	557	580	557		580
債務保証損失引当金	377	48	16	7	401
役員退職慰労引当金	1,094	41	23		1,112

(注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権に対する貸倒実績率に基づく洗替による取崩額1,527百万円、債権回収等による取崩額151百万円であります。

2 債務保証損失引当金の「当期減少額(その他)」は、引当超過による取崩額であります。

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

## 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	37
預金	
当座預金	913
普通預金	1,485
郵便振替貯金	31
定期預金	2,933
別段預金	4
計	5,367
合計	5,405

## 受取手形

## 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
島精機(香港)有限公司	5,339
TEKBES TEKSTIL MAKINE BURO EKIPMANLARI SAN. VE DIS TIC.A.S.	4,390
GOLDFAME ENTERPRISES LIMITED	1,302
TETAS MAKINA TEKSTIL BURO EKIPMANLARI SAN.VE DIS TIC.A.S.	532
SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.	304
その他	2,525
合計	14,396

## 期日別内訳

期日	金額(百万円)
1カ月以内	5,005
2カ月以内	388
3カ月以内	502
4カ月以内	1,189
5カ月以内	698
6カ月以内	1,757
1年以内	1,820
1年超	3,033
合計	14,396

## 売掛金

## 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.	10,382
島精機(香港)有限公司	10,284
PT. JABA GARMINDO(FACTORY)	889
MMC BASEL HAMWI	658
SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.	407
その他	2,390
合計	25,013

## 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	次期繰越高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	
18,509	29,692	23,187	25,013	48.1	267.5

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

## たな卸資産

区分	金額(百万円)	
製品	横編機	5,061
	デザインシステム	161
	手袋靴下編機	78
	その他	7
	5,310	
原材料	主要材料	
	組立部品	2,770
	加工用素材	308
	補助材料	
	市販品	674
	3,753	
仕掛品	横編機	581
	デザインシステム	21
	手袋靴下編機	4
	その他	195
	803	
貯蔵品	物流用貯蔵品	236
	その他	61
	298	
合計	10,165	

## 関係会社株式

銘柄	金額(百万円)
島精機(香港)有限公司	7,074
SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.	708
SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.	537
(株)シマファインプレス	430
東洋紡糸工業(株)	210
SHIMA SEIKI EUROPE LTD.	174
(株)海南精密	150
SHIMA SEIKI KOREA INC.	113
(株)サウステラス	80
ティーエスエム工業(株)	48
SHIMA SEIKI U.S.A. INC.	0
(株)マーキーズ	0
(株)ツカダシマセイキ	0
合計	9,529

## 買掛金

## 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)シマファインプレス	1,639
(株)寺内製作所	456
サンワテクノス(株)	420
(株)石川製作所	266
ティーエスエム工業(株)	224
その他	2,343
合計	5,351

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 <a href="http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html">http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html</a>
株主に対する特典	3月31日及び9月30日現在100株以上保有の株主に対して特別企画品を進呈いたします。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書	事業年度 (第48期)	自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日	平成21年6月29日 関東財務局長に提出。
(2) 内部統制報告書 及びその添付書類			平成21年6月29日 関東財務局長に提出。
(3) 四半期報告書及び 確認書	(第49期第1四半期)	自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日	平成21年8月12日 関東財務局長に提出。
	(第49期第2四半期)	自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日	平成21年11月13日 関東財務局長に提出。
	(第49期第3四半期)	自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日	平成22年2月15日 関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成21年6月26日

株式会社島精機製作所  
取締役会 御中

### 大手前監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 大橋 博

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 古谷 一郎

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社島精機製作所の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社島精機製作所及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 追記情報

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されているとおり、会社は当連結会計年度より在外子会社等の収益及び費用の換算方法を変更している。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社島精機製作所の平成21年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社島精機製作所が平成21年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月29日

株式会社島精機製作所  
取締役会 御中

大 手 前 監 査 法 人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 後 藤 芳 朗

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 江 本 律 子

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社島精機製作所の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社島精機製作所及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社島精機製作所の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社島精機製作所が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

平成21年 6 月26日

株式会社島精機製作所  
取締役会 御中

大 手 前 監 査 法 人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 大 橋 博

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 古 谷 一 郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社島精機製作所の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第48期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社島精機製作所の平成21年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

平成22年 6 月29日

株式会社島精機製作所  
取締役会 御中

大 手 前 監 査 法 人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 後 藤 芳 朗

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 江 本 律 子

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社島精機製作所の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第49期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社島精機製作所の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。